

令和5年6月9日

気候危機対策会議

(令和5年度 第1回)

議 題

1. 新たな世田谷区環境基本計画の策定について
2. 東京電力パワーグリッドとの協定に向けて
3. 令和5年度夏季の区施設における節電の実施について
4. その他

・各議題へのご意見等については、6月13日(火)までに環境計画課へご連絡ください。

【事務局】 環境政策部環境計画課

新たな世田谷区環境基本計画の策定について

1 主旨

区では、環境の保全、回復及び創出に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、令和 2 年 3 月に「世田谷区環境基本計画（後期）」（計画期間：令和 2 年度～令和 6 年度）（以下、「現行計画」という）を策定し、取組みを進めてきた。現行計画の計画期間終了に伴う、次期「世田谷区環境基本計画」（以下、「次期計画」という）について、令和 5 年度から令和 6 年度にわたり策定に向けた作業を行う。

なお、この度の計画策定にあたっては、令和 2 年 10 月の「世田谷区気候非常事態宣言」における、2050 年 CO₂ 排出量実質ゼロ表明を踏まえ、令和 5 年 3 月に策定した「世田谷区地球温暖化対策地域推進計画（計画期間：令和 5 年度～令和 12 年度）（以下、「温対計画」という）」等の関連計画や、この間の国際社会・国・都の動向等の社会情勢との整合を図るものとする。

また、区、区民及び事業者が環境の保全等に関して配慮すべき事項を定めた「世田谷区環境行動指針」を包含することとする。

2 根拠法令

世田谷区環境基本条例 第 7 条及び第 8 条

<抜粋>

・第 7 条（世田谷区環境基本計画）

区長は、環境の保全等に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、世田谷区環境基本計画を策定しなければならない。

・第 8 条（世田谷区環境行動指針）

区長は、環境の保全等に関する目標の実現のため、区、区民及び事業者が環境の保全等に関して配慮すべき事項を、世田谷区環境行動指針として策定しなければならない。

3 検討体制

(1) 諮問・答申

区長から環境審議会に諮問し、答申を受ける。

(2) 庁内検討

庁内における意見聴取及び検討を行い、意見を集約する。

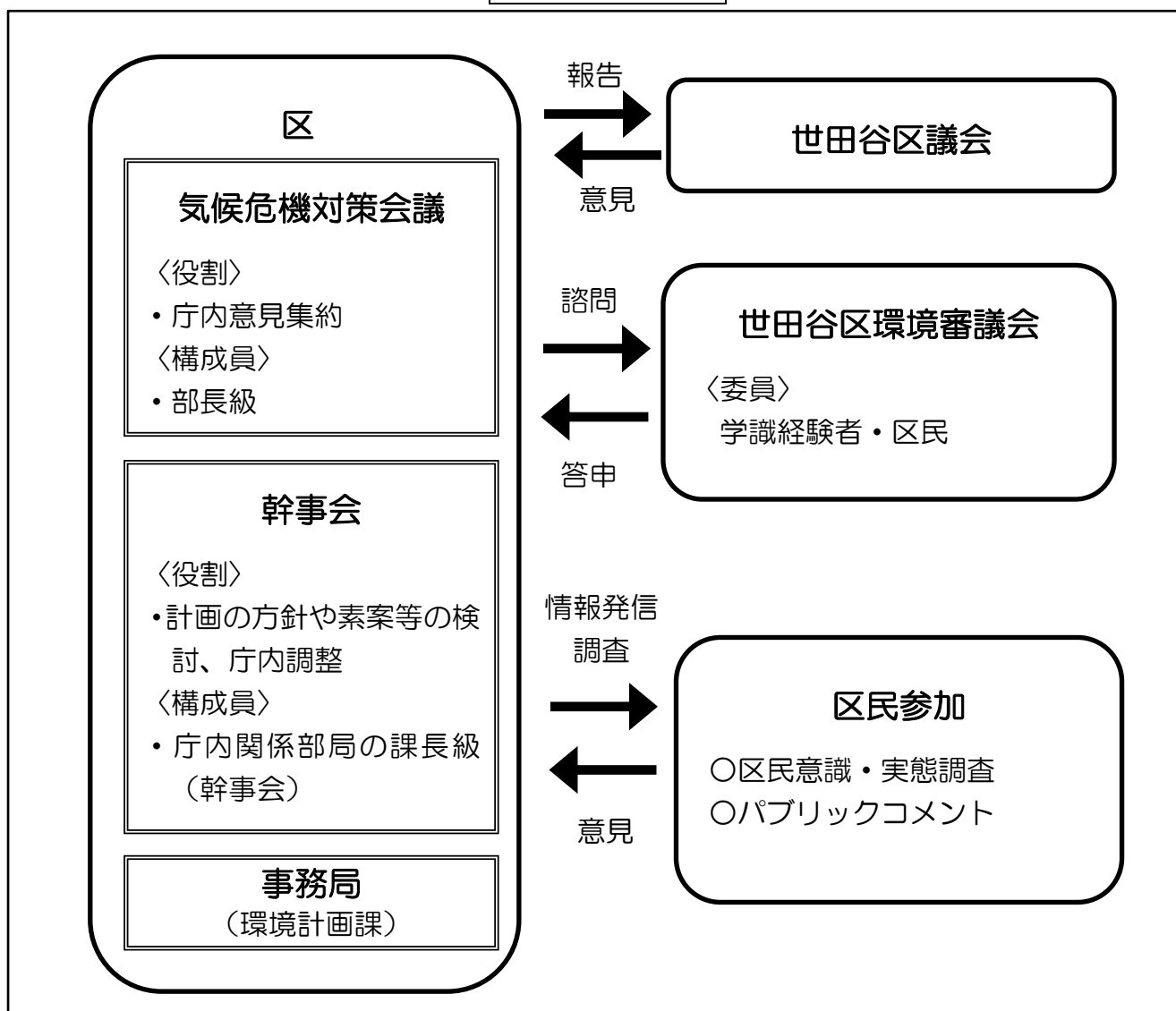
(3) 区民意見の聴取

パブリックコメントやその他の手法を用いて、意見を聴取する。

(4) 各検討主体の関係

以下の図「計画の推進体制」のとおり。

計画の推進体制



4 今後のスケジュール

令和5年度

- 6月 環境審議会（諮問、現行計画の進捗状況結果報告）
- 8月 環境に関する区民意識・実態調査実施
- 9月 環境・災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会（現行計画の進捗状況結果報告）
- 11月 環境審議会（区民意識・実態調査結果報告）
環境・災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会（区民意識・実態調査結果報告）
- 1月 環境審議会（骨子案の審議）
- 2月 環境・災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会（骨子案の報告）

令和6年度

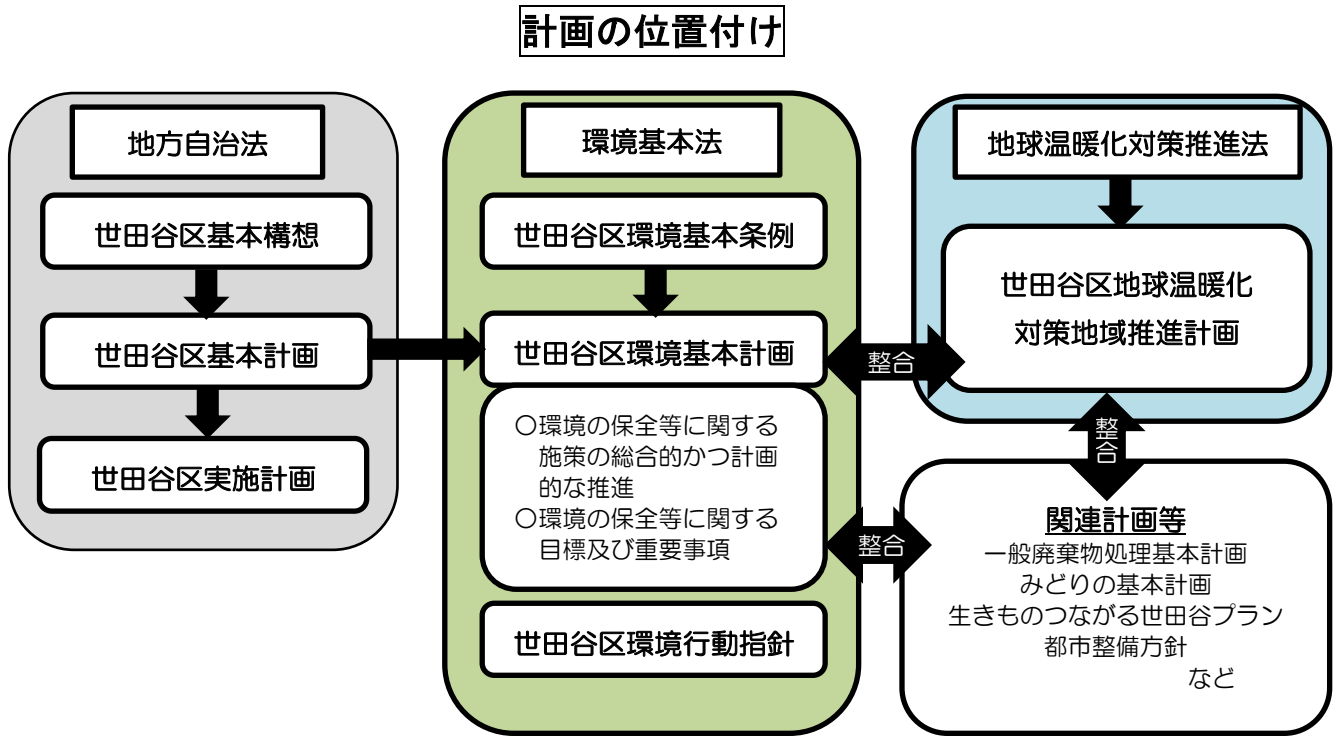
- 4月 環境審議会（素案たたき台の審議）
- 7月 環境審議会（素案の審議）
- 9月 環境・災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会（素案の報告）
区民説明会・パブリックコメント
- 11月 環境審議会（案の審議）
- 12月 環境審議会（答申）
- 2月 環境・災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会（案の報告）
- 3月 計画策定

5 世田谷区環境基本計画について

(1) 計画の位置づけ

世田谷区環境基本条例に基づき、環境の保全、回復及び創出に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画となる。

関連法令及び計画との関係については、以下の「計画の位置付け」のとおり。



(2) 次期計画の期間及び主な関連計画の計画年次

○次期計画の期間 令和7年度～12年度

| 計画名 | 年度 | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|----------------------|------------|------------|------------|----------------|------------|---|---------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 2018 H30 | 2019 R1 | 2020 R2 | 2021 R3 | 2022 R4 | 2023 R5 | 2024 R6 | 2025 R7 | 2026 R8 | 2027 R9 | 2028 R10 | 2029 R11 | 2030 R12 | 2031 R13 |
| 世田谷区基本計画、 世田谷区実施計画 | (10年) 世田谷区基本計画 | | | | (4年) 新実施計画(後期) | | (2年) 未来つながるプラン | | (8年) 次期基本計画 | | | | | |
| 世田谷区環境基本計画 | (10年) 環境基本計画 | | | | (5年) 後期計画 | | | (6年) 次期環境基本計画 | | | | | | |
| 世田谷区地球温暖化 対策地域推進計画 | | | | | 改定 | | (8年) 地球温暖化対策地域推進計画 (中期目標:2030年度 長期目標:2050年度) | | | | | | | |
| 世田谷区一般廃棄物処理 基本計画 | (10年) 一般廃棄物処理基本計画 | | | | (5年) 中間見直し | | | 次期計画 | | | | | | |
| 世田谷区みどりの基本計画 | (10年) みどりの基本計画 | | | | 次期計画 | | | | | | | | | |
| 生きものつながる世田谷プラン | (16年) 生きものつながる世田谷プラン | | | | | | | | | | | | | |

(3) 現行計画（「世田谷区環境基本計画（後期）」）の概要

① 計画期間：令和2年度～6年度

② 区のめざす環境像

「自然の力と人の暮らしが豊かな未来をつくる～環境共生都市せたがや～」

③ 環境の保全等に関する5つの目標

基本目標1【みどり】

みどりの豊かな潤いのあるまちをつくります

基本目標2【エネルギー】

脱炭素社会に役立つエネルギーの利用拡大と創出をめざします

基本目標3【ライフスタイル】

環境負荷を抑えたライフスタイルを確立します

基本目標4【地域社会】

地球温暖化に対応し安心して暮らせる地域社会をつくります

基本目標5【生活環境】

快適で暮らしやすい生活環境を確保します

④ 計画の実施に当たっての重視すべき視点

- ・SDGs（持続可能な開発目標）の考え方の活用
- ・都市農地の維持保全など、みどりを守り育てる取組みの推進
- ・脱炭素社会の実現に向けた取組みの推進
- ・再生可能エネルギーの一層の普及促進
- ・地域間連携による環境施策の展開
- ・次世代を担う子どもたちへの環境教育の推進
- ・海洋プラスチックごみ問題への対応
- ・住宅の省エネルギー化の促進
- ・豪雨対策など、グリーンインフラの視点を踏まえた取組みの推進
- ・ヒートアイランド対策など、気候変動への適応策の推進

(4) 現行計画の5つの基本目標と取組みの総括等

- ・ 現行計画の5つの目標と実現のための方針を示す。
- ・ 基本目標ごとに令和2年度～4年度までの区の実施について、総括評価を行った。
- ・ 現行計画策定時点である平成30年度を基準年度として、令和4年度までの環境・取組みの指標を取りまとめた。

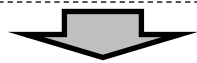
① 現行計画の5つの基本目標と取組みの総括等

基本目標1【自然】 みどりの豊かな潤いのあるまちをつくりま

- 方針1-1 みどりの保全に取り組みます
- 方針1-2 地域にあったみどりの創出を進めます
- 方針1-3 地域の水循環の回復と水環境の再生に取り組みます

世田谷区は国分寺崖線などを中心にまとまった樹林地や湧水、河川などの豊かなみどりに恵まれており、住宅都市世田谷としての魅力を高めています。みどりの保全・創出に努め、良好な自然環境を未来につなげることが必要です。

令和14年に区内のみどり率を33%とする「世田谷みどり33」の取組みを中心に、量だけでなく、質の高い豊かなみどりの創出による潤いのあるまちをつくり、安全で快適な都市の環境を守る社会基盤（グリーンインフラ）として次の世代へ引き継いでいきます。



【取組みの総括】

みどりの基本条例及びみどりの基本計画・みどりの行動計画並びに、生きものつながる世田谷プラン・生きものつながる世田谷プラン行動計画に基づき、みどりの量や質の高い豊かなみどり創出に向けて取組みを進めた。みどりの保全では、国分寺崖線保全重点地区内の緑化指導、風致地区条例に基づいて、質の高いみどりの保全を図った。民有地のみどりの創出については、地域緑化制度による緑化の推進やシンボルツリーや生垣緑化などの緑化助成制度により、豊かなみどりの創出を図った。

以上により、質の高い潤いのあるみどりの保全・創出の取組みを進めることができた。

基本目標 2【エネルギー】脱炭素社会に役立つエネルギーの利用拡大と創出をめざします

方針 2-1 エネルギーの地産地消をめざします

方針 2-2 全国自治体との連携や小売電気事業者からの再生可能エネルギーの利用拡大を進めます

地球温暖化の進行を防ぐためには、化石燃料の利用を減らし、自然の力である太陽光、地中熱などを利用することが重要です。また、災害対策等の観点から、小規模分散型のエネルギー源の確保が必要です。

そのため、環境負荷の少ない再生可能エネルギーの普及に向けて、国や東京都と連携した支援策を充実させるとともに、技術動向を注視し、設置コストと省エネ効果の検証なども重ねながら、公共施設等における再生可能エネルギーの積極的な導入を進め、住宅都市である世田谷の特性を踏まえ、脱炭素社会に役立つエネルギーの利用拡大と創出をめざします。

区民の再生可能エネルギーへの関心は着実に高まっています。区はこうした施策を通じて、さらなる意識向上を図り、「再生可能エネルギーを利用している区民の割合」25%の達成をめざしています。



【取組みの総括】

現行計画に基づき、再生可能エネルギーの利用拡大に進めた。

- ・ 区は、区内最大級の事業者であり、電力消費者であることから、本庁舎のほか、令和2年度より出張所などの区施設約90箇所において再生可能エネルギー100%の電力を導入し、率先して再生可能エネルギーの利用拡大を進めている。着実に取組みを進めているところであるが、燃料費高騰による影響等の状況を勘案しつつ、エネルギーの脱炭素化に向け、更なる利用拡大を図っていく必要がある。
- ・ 公共施設への再生可能エネルギー設備導入については、オンサイトPPAモデル（第三者保有モデル）を活用し、令和4年度に区立中学校6校に太陽光発電システム及び蓄電池を設置し、公共施設における再生可能エネルギーの創出、平時の温室効果ガス排出の抑制及び災害時の電源確保に取り組んだ。また、令和5年度の設置に向けて準備を進めた。
- ・ 交流自治体等との電力連携については、5自治体の発電所による自然エネルギーを区内（住宅、事業所、公共施設）に供給している。また、「自然エネルギーの活用による自治体ネットワーク会議」を毎年開催し、電力連携する自治体との意見交換や情報共有、新たな連携自治体の掘起しに取組むとともに、開催手法をオンラインにすることで参加・視聴する自治体数が増加し、交流自治体等とのネットワーク形成と広域化につながった。

以上により、区内での再生可能エネルギー由来電力の利用・創出を進め、温室効果ガス削減に寄与することができた。

基本目標3【ライフスタイル】環境負荷を抑えたライフスタイルを確立します

- 方針3-1 エコな暮らしを促進します
- 方針3-2 住まい・建物の省エネルギー化を進めます
- 方針3-3 ごみの発生抑制と資源の有効活用を推進します

世田谷区内では、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量の約5割を家庭が占めています。温室効果ガスを削減するには、日常生活の中で環境に配慮した省エネルギー行動に取り組むことが重要です。

「自然の恵みを活かして小さなエネルギーで豊かに暮らすまち世田谷」をめざし、環境に負荷をかけないライフスタイル・ビジネススタイルへ転換していくことが求められます。

また、ごみの発生抑制と再使用の2Rの取組みを行ったうえで、資源の有効活用を推進し、資源循環による環境に配慮した持続可能な社会の実現をめざします。



【取組みの総括】

エコな暮らしの推進や住まい・建物の省エネルギー化について、以下のとおり取組みを進めた。

- ・ 環境に配慮した住宅リノベーションの推進については、「環境配慮型住宅リノベーション推進事業」の活用に向け、補助率や補助上限額の拡充を行い、二酸化炭素削減効果の高いメニューへの誘導を図った。また、区民に対し、ホームページ、広報、SNS等での周知や、リーフレットを作成し、まちづくりセンター等へ配架するなど、広く情報発信を行うとともに、省エネ住宅セミナーを開催し、住宅の断熱化をはじめ省エネ・創エネの視点から考える機会の提供を行った。事業者に対しては、技術講習会を年1回から3回に拡充し、省エネ化・断熱化に関する技術習得の機会を増やすとともに、制度について周知を行った。以上により、区民と事業者の省エネ住宅に関する意識を醸成し、環境に配慮した住宅の推進に寄与することができた。
- ・ 「省エネポイントアクション事業」を実施し、行動量に応じた「省エネポイント」を提供することで、環境に配慮した日常生活への行動変容を促し、家庭からの温室効果ガスの削減を図った。さらには区全体の省エネ意識を醸成するため環境イベントを開催し、SNSや広報など多様な媒体の活用により区民参加を呼びかけて事業効果を高めた。

ごみの発生抑制や資源の有効活用について、以下のとおり取組みを進めた。

- ・ 「資源・ごみの収集カレンダー」やごみ分別アプリ等によるごみの削減に関する情報の周知、事業所への「エコフレンドリーショップ」登録呼びかけによる登録店舗数の拡大、区民・大学・事業者と連携したごみ減量に関する普及啓発の実施等により、区民・事業者のごみ削減に関する意識啓発を進めた。
- ・ 大学・事業者等と連携し、環境を意識した行動の実践とワークショップを小学生と保護者を対象に行った。さらに食品ロス削減に向けた取組みとして、区内11か所でのフードドライブの常時受付に加え、区民まつり等のイベントでも実施した。
- ・ ごみの減量効果を検証するため、令和3年10月より民間事業者との連携による「粗大ごみの新たなリユースの仕組みに関する実証実験」を行った。

以上により、不要な「もの」を出さない暮らしの醸成や分別の徹底、食品ロスの削減など、区民・事業者の2R行動の普及啓発を実施し、区民1人1日当たりのごみ排出量の着実な削減に寄与した。

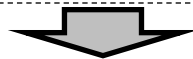
基本目標 4【地域社会】地球温暖化に対応し安心して暮らせる地域社会をつくります

- 方針 4-1 環境負荷の小さいまちをつくります
- 方針 4-2 環境にやさしい移動・交通ができるまちをつくります
- 方針 4-3 地球温暖化に適応し、豪雨対策やヒートアイランド対策等に取り組みます

地球温暖化に対しては、環境負荷を抑え温暖化を緩和する取組みと、温暖化に伴う気候変動に適応する取組みが必要です。

そのため、ヒートアイランド現象による暑さ対策や、短時間強雨等の異常気象による道路冠水対策など、グリーンインフラの観点による街づくりが必要です。

環境負荷の低減に資する街づくりや交通網の整備に取り組み、持続可能な地域社会を形成するとともに、地域コミュニティを活かした、安全・安心な地域社会づくりを進めます。



【取組みの総括】

- ・ 大規模建築物等における環境配慮の推進については、環境配慮制度を通じて、開発事業者に対し、「自然エネルギーの有効利用」「省エネルギー対策」「みどりの保全・創出」「災害対策」の4つの区分について要請を行い、環境配慮の取組みの推進を図った。また、「世田谷区地球温暖化対策地域推進計画」の改定作業と併せて、東京都の環境確保条例の改定の動きを踏まえ、「評価算定書」を改定し、より環境負荷の低減に資する街づくりの推進に寄与することができた。
- ・ 平成31年に導入した建築物の新たな高さ規制では、地域に応じた高さの制限値を定める一方で、敷地内の緑化の推進や壁面後退距離の確保など、市街地環境の向上に資する良好な建築物については、指定値を超える高さの上限を設定した認定・許可制度を設け、誘導していくとした。制度の適用には設計の自由度が高い一定規模以上の敷地が必要であり、制度の運用実績は多くはないが、認定許可の基準には、みどりの基本条例の緑化基準や住環境条例の環境空地の設置基準に上乗せした基準を設けるなど、各条例に該当する各々の建築計画等により区全体でみどりの保全や創出が行われている。引き続きみどりの維持・保全への取組みは継続すべきと考えるが、今後は建築物の省エネ対策に結びつくような施策の検討が必要と考えられる。
- ・ 開かずの踏切解消を目的とした京王線（笹塚～仙川駅間）連続立体交差事業において、事業延長約7.2kmの内、約6.4kmで鉄道本体工事に着工している。引き続き東京都、関係区、鉄道事業者と協力し、事業の早期完了を目指す。
- ・ 令和3年度に改定した「世田谷区豪雨対策行動計画」（改定）に基づき、頻発する集中豪雨による水害を軽減するための取組みを進めた。
 - ① 河川・下水道の整備においては、東京都と連携・調整して、都事業の河川・下水道整備を推進するとともに、区においても都からの受託により下水道整備を進めている。
 - ② 流域対策については、雨水流出抑制施設の設置に関する指導要綱に基づき、公共施設や道路、公園、民間施設等への指導及び雨水浸透施設の整備を進めている。
 - ③ 雨水浸透施設、雨水タンク設置の助成事業については、流域対策の進捗が低迷している地域への周知を重点的に行うなど、工夫して進めている。
 - ④ グリーンインフラの啓発を目的に「グリーンインフラ学校」を開催し、専門家の講義を受講するとともに雨庭づくりを体験するなど、区民、関係機関などの理解向上に努めた。
 - ⑤ 雨量・水位観測システムや道路冠水システムの保守、風向風速計の増設など避難に必要な情報の収集と提供に努めている。

以上により、豪雨対策について着実に取組みを進めることができた。

基本目標 5 【生活環境】 快適で暮らしやすい生活環境を確保します

方針 5 - 1 きれいな空気、水等の環境を確保します

方針 5 - 2 生活環境を守り、快適なまちをつくります

良好な生活環境を次の世代に引き継ぐには、きれいな空気や水の保全に努め、騒音や振動などを減らすことが必要です。

大気や河川等の水質など、広域的な環境の改善や保全に向けた調査・監視等の継続実施、騒音の防止等の各種公害対策に取り組みます。

地域・区民と協働し、ポイ捨てや歩きたばこの防止などの環境美化に努めるとともに、空家等に関する各種対策を推進することで、区民の健康で、快適な生活環境を確保します。



【取組みの総括】

環境基本計画（後期）に基づき、まちの環境美化活動を推進した。

- ・ ポイ捨て防止及びプラスチックごみによる海洋汚染対策として、区民・事業者と連携し、一斉清掃活動「せたがやクリーンアップ作戦」を実施し、環境美化に取り組んだ。清掃活動へ積極的に参加してもらい環境美化に繋げていくため、継続実施していく。
- ・ たばこマナーの向上に向けた環境美化指導員による巡回指導、路面標示シートや電柱巻看板等により、マナー向上に取り組んだ。一方、歩きたばこ・路上喫煙防止キャンペーンについては、新型コロナウイルスの影響により、回数が減少した。

以上により、キャンペーン活動はやむを得ない状況ではあったが、一斉清掃活動やたばこマナーへの取組みは根気よく取り組んでいくことができた。また、喫煙場所の設置については、適地が無いことや、周辺住民の理解を得られない状況である。

② 方針別の環境・取組みの指標

■ 基本目標 1 【自然】 みどりの豊かな潤いのあるまちをつくります

| 項目 | 基準年 (平成 30 年度) | 実績 (令和 4 年度) | 目標値 (令和 6 年度) |
|-------------------------------------|---------------------------|---------------------------|--|
| 《方針 1 - 1》みどりの保全に取り組みます | | | |
| 保存樹木指定本数 | 1,867 本 | 1,719 本 | 1,905 本 (令和 3 年度) |
| 農地面積 ^(注1) | 85.89ha | 77.28ha | 80.69ha ^(注2) |
| 農業公園の認知率 | 15.30% | 18.9% | 33% (令和 3 年度) |
| 農家戸数・農業従事者数 | 318 戸・708 人 | 297 戸・639 人 | 305 戸・680 人 ^(注2) |
| 認定農業者・認証農業者 ^(注3) 数(経営体数) | 認定農業者 51 経営体・認証農業者 33 経営体 | 認定農業者 57 経営体・認証農業者 35 経営体 | 認定農業者 54 経営体・認証農業者 37 経営体 |
| 農業体験参加区民数【単年度実績】 | 約 37,000 人 | 32,928 人 | 38,400 人 |
| 農業イベント参加者数【単年度実績】 | 約 8,000 人 | 5,000 人 | 9,200 人 |
| 生産緑地面積 | 86.08ha | 82.64ha | 79.75ha ^(注2) |
| 《方針 1 - 2》地域にあったみどりの創出を進めます | | | |
| 公共施設における緑のカーテン実施施設数 | (学校) 42 校 (その他) 64 箇所 | (学校) 38 校 (その他) 59 箇所 | (学校) 希望校を中心に実施 (その他) 64 箇所 |
| 市民緑地面積 | 16,878.6 m ² | 14,902.93 m ² | 18,078.6 m ² (令和 3 年度) |
| 公園整備面積(新設、拡張) | 174.56ha | 176.64ha | 178.9ha (令和 5 年度) |
| 緑道再生 | 795m | 2,655m | 1,726m (平成 29~令和 3 年度) |
| 新たに整備、拡張した区立都市公園等の面積(4 年間の累計) | 3,020 m ² | 18,930 m ² | 43,550 m ² (平成 30~令和 3 年度) |
| 緑化助成によるシンボルツリーの植栽本数 | 688 本 | 1,163 本 | 1,030 本 (令和 3 年度) |
| 緑化助成件数 | 1,459 件 | 1,701 件 | 1,668 件 (令和 3 年度) |
| 《方針 1 - 3》地域の水循環の回復と水環境の再生に取り組みます | | | |
| 雨水タンク助成件数 | 531 件 | 659 件(664 基) | 711 件 |

注 1 : 農地面積については、経営農地面積 10 a 以上の農家を対象に集計している。

注 2 : 農地面積、農家戸数・農業事業者数、生産緑地面積については、減少を抑制する目標。

注 3 : 自ら農業経営に向けた目標を持ち、意欲的に取り組む農業者で、今後の区内の農業の牽引役となる農業者。

■基本目標2【エネルギー】 脱炭素社会に役立つエネルギーの利用拡大と創出をめざします

| 項目 | 基準年 (平成30年度) | 実績 (令和4年度) | 目標値 (令和6年度) |
|--|-----------------|----------------|-------------------|
| 《方針2-1》エネルギーの地産地消をめざします | | | |
| 太陽光発電設備 ^(注1) の普及 | 7,204件 | 8,725件 | 8,955件 |
| 環境配慮制度に基づく評価算定書の星の数 ^(注2) 【単年度実績】 | 平均1.8個 | 平均2.1個 | 平均2.0個 |
| 公共施設の太陽光発電導入数 | 51件 | 64件 | 68件 |
| 《方針2-2》全国自治体との連携や小売電気事業者からの再生可能エネルギーの利用拡大を進めます | | | |
| 自然エネルギーの学習会等への参加者数 | 1,675人 | 3,303人 | 5,000人 |
| 他自治体との連携による再生可能エネルギーの利用推進 | 3自治体 | 5自治体 | 12自治体 (令和12年度) |
| 公共施設への再生可能エネルギー電力の導入率 ^(注3) | 11.10% | 18% (令和3年度) | 50% (令和12年度) |

注1：固定価格買取制度における太陽光発電設備の導入状況（出典：経済産業省 資源エネルギー庁「固定価格買取制度 情報公表用ウェブサイト」）。

注2：環境配慮制度に基づく評価算定書では、「自然エネルギーの有効利用」「省エネルギー対策」「みどりの保全・創出」「災害対策」の4項目において、最小1個（適水準配慮）から最大3個（優良な配慮）により評価している。

注3：区全施設の電力使用量に対する再生可能エネルギーの比率。

■基本目標3【ライフスタイル】 環境負荷を抑えたライフスタイルを確立します

| 項目 | 基準年 (平成30年度) | 実績 (令和4年度) | 目標値 (令和6年度) |
|-----------------------------------|--|--|--|
| 《方針3-1》エコな暮らしを促進します | | | |
| 区内の二酸化炭素排出量【単年度実績】 | 2,671千t-CO2 (平成28年度) | 2,517千t-CO2 (令和2年度) | 1,151千t-CO2 (令和12年度) |
| 省エネポイントアクションの参加世帯数・結果報告世帯数【単年度実績】 | 参加登録 1,077世帯・団体 報告 860世帯・団体 【内訳】 ・2カ月コース 参加登録 399世帯・団体 報告 336世帯・団体 ・3カ月コース 参加登録 678世帯・団体 報告 524世帯・団体 | 参加登録 2,200世帯・団体 報告 1,124世帯・団体 (3か月コースのみ実施) | 参加登録 1,500世帯・団体 報告 1,350世帯・団体 |

| 項目 | 基準年 (平成 30 年度) | 実績 (令和 4 年度) | 目標値 (令和 6 年度) |
|---|-------------------|----------------------------------|------------------------|
| 省エネポイントアクション 3 カ月コース参加 1 世帯当たりのエネルギー消費量【単年度実績】 | 13.63GJ/世帯 | 14.26GJ/世帯 | 11.78GJ/世帯 |
| エネルギーセミナー・総合相談の実施回数・参加人数【単年度実績】 | 4 回 292 人 | 新型コロナウイルスの影響により、実施無し | 6 回 480 人 |
| 環境イベント等の参加人数【単年度実績】 | 3,120 人 | 2,181 人 | 3,700 人 |
| SNS等を含む区から発信する環境情報の更新回数【単年度実績】 | 15 回 | 36 回 | 30 回 |
| 自転車通行空間 ^(注1) 整備延長距離 | 19.6km | 51.3km | 72.5km |
| 次世代自動車の普及率 ^(注2) | 15% | 19.1% | 66.3% (令和 12 年度) |
| 学校エコライフ活動実施校数【単年度実績】 | 区立小・中学校全校 | 全校に意識が根付いたことから、平成 30 年度末を以て事業を終了 | 区立小・中学校全校 |
| 《方針 3 - 2》住まい・建物の省エネルギー化を進めます | | | |
| 新築住宅に占める省エネルギー住宅の割合 ^(注3) 【単年度実績】 | 22.1% | 49.2% | 30.0% |
| 環境配慮型住宅リノベーション推進事業補助金の助成件数 | 617 件 | 2,188 件 | 4,087 件 |
| 家庭用燃料電池の導入件数 | 5,809 件 | 8,813 件 | 10,539 件 |
| 環境配慮制度に基づく評価算定書の星の数 ^(注4) (再掲)【単年度実績】 | 平均 1.8 個 | 平均 2.1 個 | 平均 2.0 個 |
| 区役所全体のエネルギーの削減(平成 21 年度比)【単年度実績】 | 6.9%削減 | 1.1%削減 (令和 3 年度) | 18.6%以上削減 (令和 5 年度) |

| 項目 | 基準年 (平成 30 年度) | 実績 (令和 4 年度) | 目標値 (令和 6 年度) |
|---------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 区の新庁舎における二酸化炭素排出量 (単位面積当たり) | 76.6kg/m ² (令和 28 年度) | 新庁舎完成時の目標であるため数値なし | 41.1kg/m ² (注5) (令和 9 年度新庁舎完成) |
| 《方針 3 - 3》ごみの発生抑制と資源の有効活用を推進します | | | |
| 区民 1 人 1 日当たりのごみ排出量【単年度実績】 | 530g/人・日 | 536g/人・日 (令和 3 年度実績。令和 4 年度は集計中。) | 482g/人・日 |
| 事業系リサイクルシステム (注6) 参加事業者数【単年度実績】 | 882 件 | 937 件 | 1,000 件 |

注 1：自転車専用通行帯や自転車走行帯（ブルーゾーン）など。目標値は優先整備路線の延長

注 2：区内のハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車の保有台数から算出。

注 3：広義には ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）も省エネルギー住宅に含まれるが、本指標では長期優良住宅及び低炭素建築物の認定申請等件数から割合を算出している。

注 4：環境配慮制度に基づく評価算定書では、「自然エネルギーの有効利用」「省エネルギー対策」「みどりの保全・創出」「災害対策」の 4 項目において、最小 1 個（適合水準配慮）から最大 3 個（優良な配慮）により評価している。

注 5：実施設計時の予測値。

注 6：世田谷区リサイクル協同組合が、区と協力し、区内の事業所の事業活動から排出される資源（新聞・雑誌・ダンボール・オフィス古紙・びん・かん）を直接回収する事業で、区内全域で実施されている。

■基本目標 4【地域社会】 地球温暖化に対応し安心して暮らせる地域社会をつくります

| 項目 | 基準年 (平成 30 年度) | 実績 (令和 4 年度) | 目標値 (令和 6 年度) |
|---|-------------------------------------|---------------------|---|
| 《方針 4 - 1》環境負荷の小さいまちをつくります | | | |
| 環境配慮制度に基づく評価算定書の星の数 (注1) (再掲) 【単年度実績】 | 平均 1.8 個 | 平均 2.1 個 | 平均 2.0 個 |
| LED 等高効率照明改修施設 | 126 施設 | 162 施設 | 178 施設 |
| 街路灯 LED 化 | 13,391 灯 | 23,628 灯 | 27,000 灯 |
| ESCO 事業導入済施設件数 | 5 件 | 6 件 | 6 件 |
| 区の新庁舎における二酸化炭素排出量 (単位面積当たり) (再掲) | 76.6kg/m ² (平成 28 年度) | 新庁舎完成時の目標であるため数値なし | 41.1kg/m ² (注2) (令和 9 年度新庁舎完成) |
| 区役所全体のエネルギーの削減(平成 21 年度比) (再掲) 【単年度実績】 | 6.9%削減 | 1.1%削減 (令和 3 年度) | 18.6%以上削減 (令和 5 年度) |

| 項目 | 基準年 (平成 30 年度) | 実績 (令和 4 年度) | 目標値 (令和 6 年度) |
|---|--------------------------------|--|---------------------------|
| 区民対象の省エネ診断実施の働きかけ件数【単年度実績】 | 349 件 | これまでの案内チラシでの働きかけは実施せず、区ホームページにて国や都の省エネ診断施策へのリンクを設定 | 490 件 |
| 《方針 4 - 2》環境にやさしい移動・交通ができるまちをつくります | | | |
| 自転車通行空間 ^(注 3) 整備延長距離(再掲) | 19.6km | 51.3km | 72.5km |
| 地区幹線道路完成総延長(東京都施工分含む)(整備率:完成延長/計画延長 91.5km) | 33.0km (36.1%) | 33.5km (36.6%) | 35.8km (39.1%) |
| 開かずの踏切解消(京王線沿線まちづくりの推進) | 京王線連続立体交差事業に伴い区が実施する側道の整備 110m | 事業延長約 7.2 kmのうち、約 6.4 km 工事着手 | 開かずの踏切解消(令和 12 年度) |
| 《方針 4 - 3》地球温暖化に適応し、豪雨対策やヒートアイランド対策等に取り組み | | | |
| 流域対策による雨水流出抑制量 | 526,000 m ³ | 587,000 m ³ | 603,000 m ³ |
| 雨水タンク助成件数(再掲) | 531 件 | 659 件 (664 基) | 711 件 |
| エコ舗装(遮熱性舗装) | 57,829 m ² | 64,702 m ² | 74,000 m ² |
| 農地面積(再掲) | 85.89ha | 77.28 ha | 80.69ha |
| 農業公園の認知率(再掲) | 15.30% | 18.9% | 33% (2021 年度) |
| 農家戸数・農業従事者数(再掲) | 318 戸・708 人 | 297 戸・639 人 | 305 戸・680 人 |
| 認定農業者・認証農業者数(経営体数)(再掲) | 認定農業者 51 経営体・認証農業者 33 経営体 | 認定農業者 57 経営体・認証農業者 35 経営体 | 認定農業者 54 経営体・認証農業者 37 経営体 |
| 農業体験参加区民数(再掲)【単年度実績】 | 約 37,000 人 | 32,928 人 | 38,400 人 |
| 農業イベント参加者数(再掲)【単年度実績】 | 約 8,000 人 | 5,000 人 | 9,200 人 |
| 生産緑地面積(再掲) | 86.08ha | 82.64ha | 79.75ha |

注 1：環境配慮制度に基づく評価算定書では、「自然エネルギーの有効利用」「省エネルギー対策」「みどりの保全・創出」「災害対策」の 4 項目において、最小 1 個(適合水準配慮)から最大 3 個(優良な配慮)により評価している。

注 2：実施設計時の予測値。

注 3：自転車専用通行帯や自転車走行帯(ブルーゾーン)など。目標値は優先整備路線の延長。

■基本目標5【生活環境】 快適で暮らしやすい生活環境を確保します

| 項目 | 基準年 (平成30年度) | 実績 (令和4年度) | 目標値 (令和6年度) |
|-----------------------------|-----------------|---------------|---------------------|
| 《方針5-1》きれいな空気、水等の環境を確保します | | | |
| 二酸化窒素の環境基準の達成率 | 100% | 100% | 100% ^(注) |
| 浮遊粒子状物質の環境基準の達成率 | 100% | 100% | 100% ^(注) |
| 河川BODの環境基準の達成率 | 100% | 100% | 100% ^(注) |
| 雨水タンク助成件数 (再掲) | 531件 | 659件(664基) | 711件 |
| 《方針5-2》生活環境を守り、快適なまちをつくります | | | |
| 歩きたばこ・路上喫煙防止キャンペーン回数【単年度実績】 | 202回 | 220回 | 220回 |
| 区内のたばこマナーに関する満足度 | 37.60% | 48.90% | 65% |
| 路上喫煙率【単年度実績】 | 0.30% | 0.10% | 0.10% |
| 指定喫煙場所の数 | 25箇所 | 43箇所 | 55箇所 |

注：二酸化窒素の環境基準の達成率、浮遊粒子状物質の環境基準の達成率、河川BODの環境基準の達成率については、現状の環境水準を維持する目標。

〈目標値について〉

現行計画策定後に目標値を更新した指標については、更新後の目標値を記載しています。

6 新たな環境基本計画の策定における検討の視点について

(1) 検討の方向性

区を取り巻く様々な社会経済情勢の中でも、特に環境に関する動向(※)はスピード感・不透明感を増しており、今日の環境行政においては、迅速かつ弾力的な対策・対応が求められています。

こうした中であっても、区の環境政策において不可欠な要素や普遍性の高い内容を見据え、理念、方針、目指す環境像や向こう6年間の基本目標等を定めることで、区が取り組んでいく施策の方向性を明らかにすることが必要です。

また、環境分野は区民の生活環境から地球規模の気候対策に至るまでの多岐かつ重層的なテーマであり、各分野を総合的、複合的に捉え、関係性を明らかにしていくことが求められます。

以上を踏まえ、次期環境基本計画策定においては、以下の考え方や視点に沿って検討を進めていきます。

■ 国や都の動向(主なもの)

※詳細は、別紙「国や都の動向」

◇地球環境

- ・【国】2050年カーボンニュートラル宣言
- ・【国】地域脱炭素ロードマップ、脱炭素先行地域
- ・【国】GX戦略の策定
- ・【都】ゼロエミッション東京宣言
- ・【都】2030年カーボンハーフ

◇自然環境

- ・【国】「30by30ロードマップ」
- ・【国】「生物多様性国家戦略2023-2030」、ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現
- ・【都】東京都生物多様性地域戦略(令和5年改定)
- ・【都】東京都生物多様性地域戦略アクションプラン(令和5年策定)

◇生活環境

- ・【国】アスベスト含有建材の範囲が拡大
- ・【国】解体事業者等が工事前に実施するアスベスト調査結果の行政への報告が義務化
- ・【国】気候変動対策・大気環境改善のための光化学オキシダント総合対策
- ・【都】「Clean Cityの実現」と「快適な大気環境(Clear Sky)の実現」
- ・【都】PM2.5の環境基準を達成

■ 世田谷区の環境を取り巻く現状

- ・単独世帯が約5割を占め、2010年～20年の10年間で1.2ポイント増加(P08)
- ・総人口は、2039年まで微増傾向が継続し、その後減少に転じる見込み(P09)
- ・高齢者人口は一貫して増加し、年少人口は逡減する見込み(P10)
- ・税収は将来的に減少が見込まれている(P14)
- ・土地利用は、住宅用地が過半を占めており、住宅用地を含む宅地が増加している(P16)
- ・みどり率は、2016年から2021年の5年間で0.80ポイント低下した(P18)
- ・エネルギー消費量は、減少傾向にある(P19)
- ・ごみ収集量・排出量は、長期減少傾向にあるが、2020年度は増加した(P20)
- ・刑法犯認知件数は、減少傾向にある(P26)
- ・事業所は、「卸売り、小売業」が最も多い(P27)
- ・区民の地域における困りごとでは「カラス等の鳥獣による被害」が多い(P32)
- ・区民の非定住理由では「住まいが狭いなど住宅事情が悪い」が多い(P33)

(2) 検討にあたっての考え方・視点 (案)

1) 計画の体系

次期環境基本計画では、区民生活や地域社会に根差した、区の環境政策における理念、方針など、向こう6年間やそれ以降の時期においても共通する内容を中心に取りまとめる。また、将来像や達成すべき目標を定める。

計画の具体的な施策や進捗管理については、次期環境基本計画と整合を図るそれぞれの分野で定める個別計画や行動計画などで行う。行動計画等は、区を取り巻くその時々状況に応じ、適宜バージョンアップしていく。

2) 検討の視点

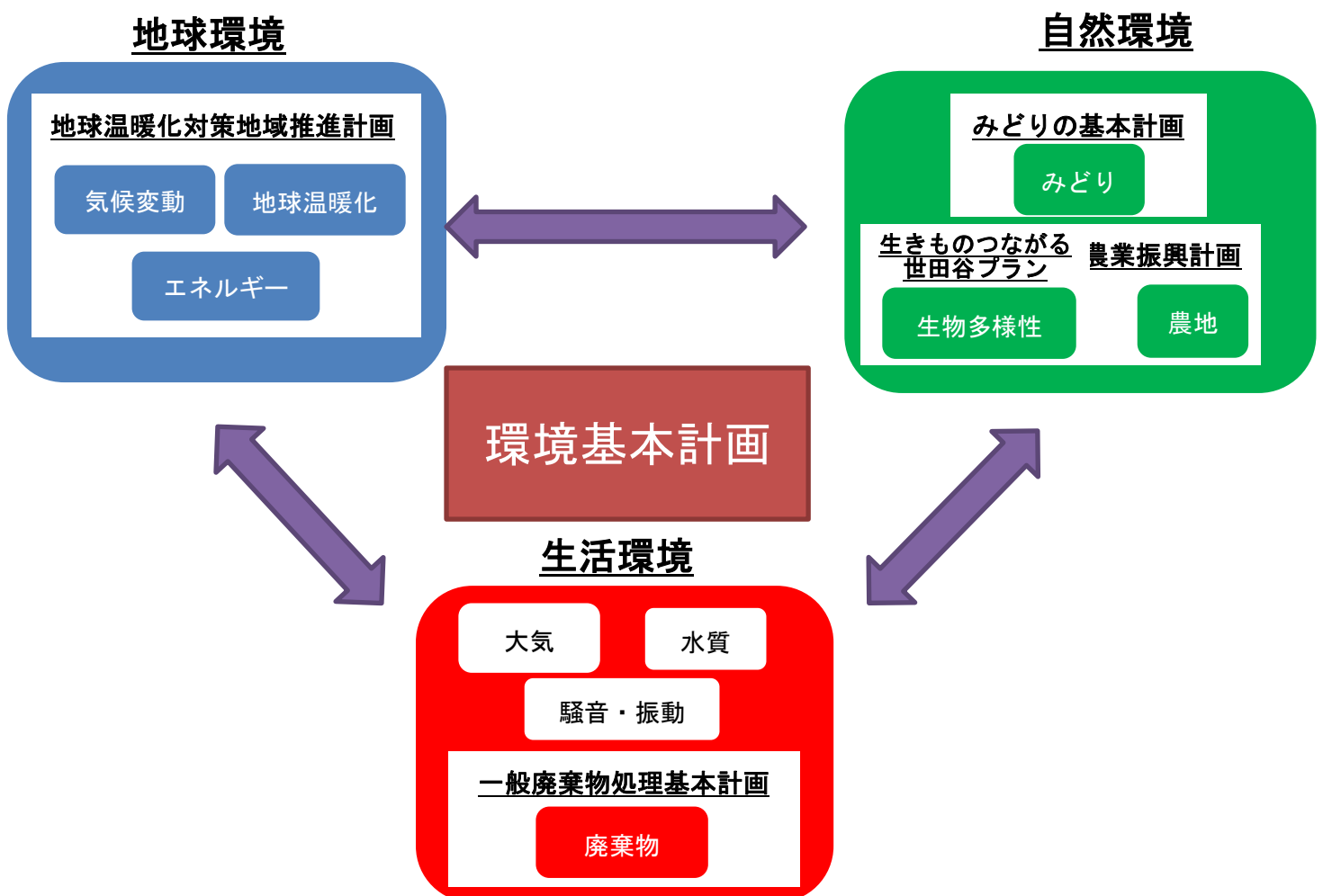
①今の世田谷区における環境のとりまとめ

新たな計画においては、社会状況や暮らし方・働き方の変化など「今の世田谷区及び区民」の状況(特性や資源・資産)などをふまえた「今の環境」について、計画のコンセプトや目指すべき将来像、区が取り組むべき環境課題の基本的な考え方を取りまとめる。

②各分野の相互関連や共通事項の明確化

計画の策定にあたっては、「環境」を地球環境(気候変動、地球温暖化、エネルギーなど)・自然環境(みどり、生物多様性、農地など)・生活環境(大気、水質、騒音・振動、廃棄物など)の3つの分野に分類して、共通の課題・相互関連が高い政策を整理することで、シナジー効果の高い共通施策を示す。

図「各分野と主な個別計画の関連」



③関連計画との整合性

現在策定中の世田谷区基本計画大綱を踏まえるとともに、各分野における「地球温暖化対策地域推進計画」や「みどりの基本計画」、「一般廃棄物処理計画」など個別の計画で定める事項と連携した横断的かつ総合的な計画とする。

【特に関連性が高い行政計画】

- ・世田谷区基本計画
- ・世田谷区地球温暖化対策地域推進計画
- ・世田谷区みどりの基本計画
- ・生きものつながる世田谷プラン～生きもの元気！ひとも元気！生物多様性地域戦略～
- ・世田谷区一般廃棄物処理基本計画

【参考】世田谷区基本計画大綱（令和5年3月）一部抜粋

⑤脱炭素社会の構築と自然との共生

➤人類の生存を脅かしている今般の気候危機は、世田谷区のみでの取り組みだけで解決できる問題ではない。地球の生態系の健全性を維持できるように、人の行動や社会のあり方を変えていく必要があり、他自治体との連携はもとより、国境を越え、世界の様々な人々や組織と認識を共有し、行動の面でも連帯を深めていく地球に暮らす一住民としての取り組みが必要である。省エネルギーの徹底や再生可能エネルギーの活用、脱炭素やグリーンインフラの整備をはじめとした取り組みは国際社会共通の現状認識や対策の方向に即したものであり、今後は環境分野のみならず、経済、教育、福祉、まちづくりといったあらゆる分野の中で進めていく。

➤資源を浪費せずに循環的に使い、多様な生物に支えられた生態系の働きを高めていく持続可能な暮らしを実現するためには、区民の日常行動やビジネススタイルの変容が必要である。区民や事業者の積極的な参加が得られるよう、意識や行動の変革を促す取り組みやそれを支えるルールなどの基盤の整備を進め、まちづくりとも連動させながら行動変容を加速していく。

➤グリーンインフラを推進するなど、自然環境が持つ多様な機能を積極的に活かしながら、生態系の維持も含めた自然環境との共生のための取り組み、みどりの保全・創出に向けた取り組みを一層進めることで、区民が暮らしの中で自然の豊かな恵みを実感、享受でき、心の豊かさや幸福感を感じられ、居心地がよく住みやすいまちづくりにつなげていくとともに、みどりに恵まれた世田谷の良好な住環境を、子どもや若者の世代へ確実に引き継いでいく。

(3) 本審議会でご議論いただきたい事項

■論点整理

| 項目① | 項目② | 内容 |
|-----|-----------------------|--|
| 趣旨 | 趣旨 | 環境の保全等に関する施策を計画的に推進する「環境基本計画」について、令和2年度から令和6年度を計画期間とする「環境基本計画（後期）」の計画期間終了に伴い、新たな環境課題に対応する次期計画の策定に向けた検討を進める。策定にあたっては、環境審議会での議論、区民意見、庁内意見、区議会での議論等を踏まえ、検討を進める。 |
| | 背景 | 計画策定にあたっては、区及び区の環境政策を取り巻く社会経済情勢や、区の現況（人口、土地利用、自然環境）などの背景を踏まえる。 |
| 考え方 | 位置づけ | 次期計画では、区民生活や地域社会に根差した、区の環境政策における理念、方針など、向こう6年間やそれ以降の時期においても共通する内容を中心に取りまとめる。また、区の関連計画（地球温暖化対策地域推進計画、みどりの基本計画、一般廃棄物処理基本計画など）との連携や整合を図りつつ、各分野を横断的に取りまとめたものとする。 |
| | 計画期間 | 令和7年度から令和12年度までの6年間とする。 |
| | 基本的な考え方 | 【議論のポイント】 ☑世田谷区の特性を踏まえた「環境」とは。 ☑地球規模から生活環境まで、多岐かつ多層的な「環境」分野を、総合的な視点から整理。 |
| | 目指すべき将来像 | 【議論のポイント】 ☑2050年の世田谷区のあるべき姿とは。 |
| | 将来像の実現に向けて特に取り組むべきテーマ | 【議論のポイント】 ☑地球環境・自然環境・生活環境レベルでの整理。 |

- ・ 本審議会では、基本計画の「基本的な考え方」「目指すべき将来像」「将来像の実現に向けて特に取り組むべきテーマ」についてご議論いただきたい。
- ・ なお、具体的な個別の取組みについては、基本計画と整合を図る各分野別の個別計画及び基本計画に基づき区が策定するアクションプランにおいて整理していく。

環境に関する国や都の動向

現時点での、環境に関する国や都の各分野の動向は以下のとおり

(1) 地球環境

【国】

- ・パリ協定や IPCC の報告書を踏まえ、各国から温室効果ガス削減目標が提示されており、2021 年 10 月に閣議決定された「地球温暖化対策計画」では、「2030 年度において、温室効果ガスを 2013 年度から 46%削減することを目指す。さらに、50%の高みに向け、挑戦を続けていく。」ことが新たな目標に掲げられた。
- ・2050 年脱炭素社会の実現に向けて「地域脱炭素ロードマップ」を定め、少なくとも 100 か所の「脱炭素先行地域」において、2030 年度までに地域特性等に応じた先行的な取り組みを実行することとし、これまで 3 回の選考を実施し、62 件が選定されている。

【東京都】

- ・2019 年 5 月に、気温上昇を 1.5℃に抑えることを追求し、2050 年までに世界の CO2 排出実質ゼロに貢献する「ゼロエミッション東京」を宣言し、同年 12 月に「ゼロエミッション東京戦略」を策定した。
- ・2021 年 1 月には、都内温室効果ガス排出量を 2030 年までに 50%削減（2000 年比）すること（カーボンハーフ）、再生可能エネルギーによる電力利用割合を 50%程度まで引き上げることを表明した。

(2) 自然環境

【国】

- ・2021 年 6 月の G7 サミットにおいて、日本を含めた G7 各国は、2030 年までに陸と海の 30%以上の保全エリアを確保することをめざす「30by30」を約束し、我が国においては、2022 年 4 月に、「30by30」目標達成までの行程と具体策を示した「30by30 ロードマップ」を策定した。
- ・2022 年 12 月に開催された COP15 で採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」を踏まえ、2023 年 3 月に閣議決定した「生物多様性国家戦略 2023-2030」では、2050 年ビジョン「自然と共生する社会」達成に向けた短期目標（2030 年ミッション）として「ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現」を掲げた。
また、2030 年のネイチャーポジティブの実現に向け、5 つの基本戦略と、基本戦略ごとに状態目標と行動目標を設定した。

【東京都】

- ・ 2023 年に改定された東京都生物多様性地域戦略では、2030 年までに生物多様性を回復軌道に乗せるネイチャーポジティブの実現を目標とした。
- ・ 上記の東京都生物多様性地域戦略で掲げる「2030 年ネイチャーポジティブ」に向けた取組みを推進するために「東京都生物多様性地域戦略アクションプラン」を 2023 年 4 月に策定した。

(3) 生活環境

【国】

- ・ アスベストの含有建材の適切な管理・処理を実現するため、2020 年 6 月にアスベスト含有建材の範囲が拡大され、解体事業者等が工事前に実施するアスベスト調査結果の行政への報告が義務化された。
- ・ 2022 年 1 月に、気候変動対策・大気環境改善のための光化学オキシダント総合対策について、【国民の安全・安心の確保】【アジア地域（世界）における脱温暖化と正常な空気の共有】の二つの目標を掲げ、総合的な取組みに係る政策パッケージを策定した。

【東京都】

- ・ 2018 年 5 月に開催の「きれいな空と都市 東京フォーラム」において、めざすべきビジョンとして、「Clean City の実現」と「快適な大気環境（Clear Sky）の実現」を掲げた。
- ・ PM2.5 は環境基準を長らく達成できていない状況であったが、2019 年度に初めて東京都のすべての測定局で環境基準を達成した。

【参考】 環境のモニタリングについて

計画の進行管理を図るため、生活環境等に関わる7つの事項について定期的なモニタリングを実施している。この間のモニタリング結果を以下に示す。

■ ポイ捨てされた吸い殻の数の推移モニタリング

| 対象エリア | 6月 | 9月 | 12月 | 3月 | 合計 | 平均 |
|----------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 下北沢駅 | 749 | 534 | 695 | 682 | 2,660 | 665 |
| 三軒茶屋駅 | 562 | 413 | 463 | 401 | 1,839 | 460 |
| 二子玉川駅 | 102 | 198 | 158 | 118 | 576 | 144 |
| 千歳烏山駅 | 346 | 253 | 174 | 223 | 996 | 249 |
| 成城学園前駅 | 144 | 88 | 151 | 93 | 476 | 119 |
| 明大前駅 | 253 | 315 | 221 | 195 | 984 | 246 |
| 下高井戸駅 | 173 | 129 | 116 | 120 | 538 | 135 |
| 梅ヶ丘駅 | 130 | 194 | 144 | 224 | 692 | 173 |
| 経堂駅 | 185 | 157 | 128 | 168 | 638 | 160 |
| 祖師ヶ谷大蔵駅 | 192 | 224 | 173 | 131 | 720 | 180 |
| 用賀駅 | 233 | 258 | 228 | 277 | 996 | 249 |
| 尾山台駅 | 163 | 142 | 104 | 90 | 499 | 125 |
| 自由が丘駅 | 159 | 138 | 126 | 89 | 512 | 128 |
| 駒沢大学駅 | 322 | 209 | 277 | 195 | 1,003 | 251 |
| 令和4年度 合計 | 3,713 | 3,252 | 3,158 | 3,006 | 13,129 | 3,282 |
| 令和3年度 合計 | 3,817 | 3,662 | 3,830 | 4,302 | 15,611 | 3,903 |

■ 路上喫煙率調査

| 対象エリア | 喫煙（人） | 非喫煙（人） | 計（人） | 喫煙率（%） |
|----------|-------|--------|--------|--------|
| 下北沢駅 | 5 | 13,316 | 13,321 | 0.0% |
| 三軒茶屋駅 | 32 | 11,151 | 11,183 | 0.3% |
| 二子玉川駅 | 0 | 6,471 | 6,471 | 0.0% |
| 千歳烏山駅 | 14 | 4,492 | 4,506 | 0.3% |
| 成城学園前駅 | 1 | 12,127 | 12,128 | 0.0% |
| 明大前駅 | 10 | 1,789 | 1,799 | 0.6% |
| 下高井戸駅 | 9 | 1,208 | 1,217 | 0.7% |
| 梅ヶ丘駅 | 3 | 4,618 | 4,621 | 0.1% |
| 経堂駅 | 1 | 11,091 | 11,092 | 0.0% |
| 祖師ヶ谷大蔵駅 | 4 | 5,043 | 5,047 | 0.1% |
| 用賀駅 | 5 | 10,253 | 10,258 | 0.0% |
| 尾山台駅 | 3 | 1,291 | 1,294 | 0.2% |
| 自由が丘駅 | 1 | 5,419 | 5,420 | 0.0% |
| 駒沢大学駅 | 10 | 3,656 | 3,666 | 0.3% |
| 令和4年度 合計 | 98 | 91,925 | 92,023 | 0.1% |
| 令和3年度 合計 | 128 | 83,198 | 83,326 | 0.15% |

■ 省エネポイントアクションのモニタリング

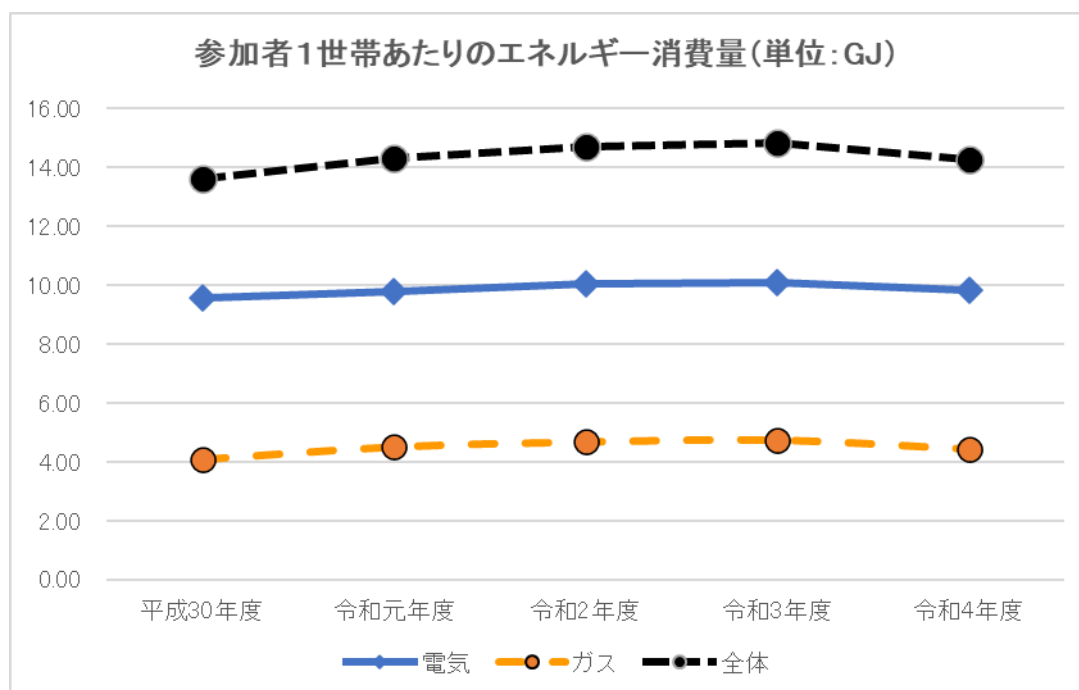
◇参加者1世帯・事業所あたりのエネルギー消費量の削減率ほか

| | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|----------------------------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 電気使用量の削減率 | 1.64 % | 2.41 % | -1.71 % | 5.97 % | 7.25 % |
| ガス使用量の削減率 | 12.84 % | -0.08 % | -6.41 % | 7.26 % | 9.93 % |
| 参加者1世帯・事業所あたりのエネルギー消費量の削減率 | 5.29 % | 1.64 % | -3.16 % | 6.39 % | 8.10 % |

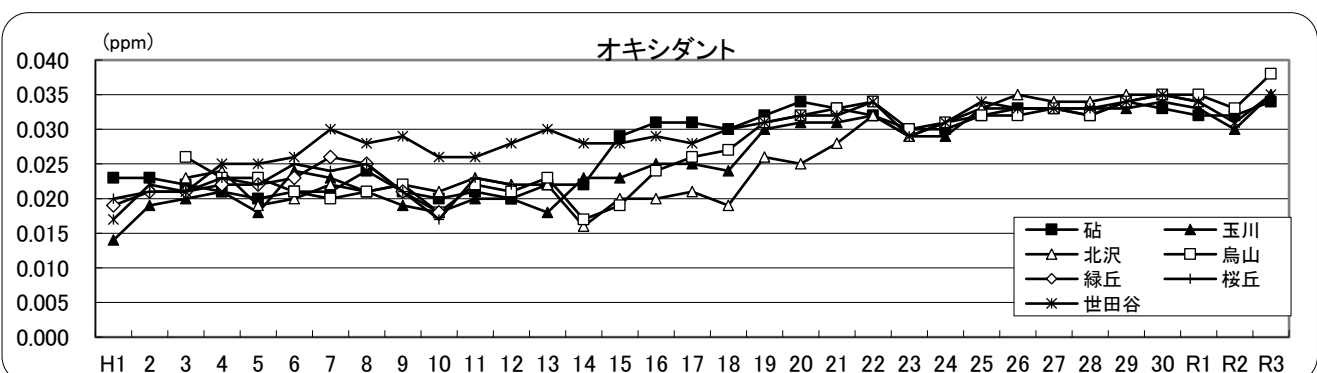
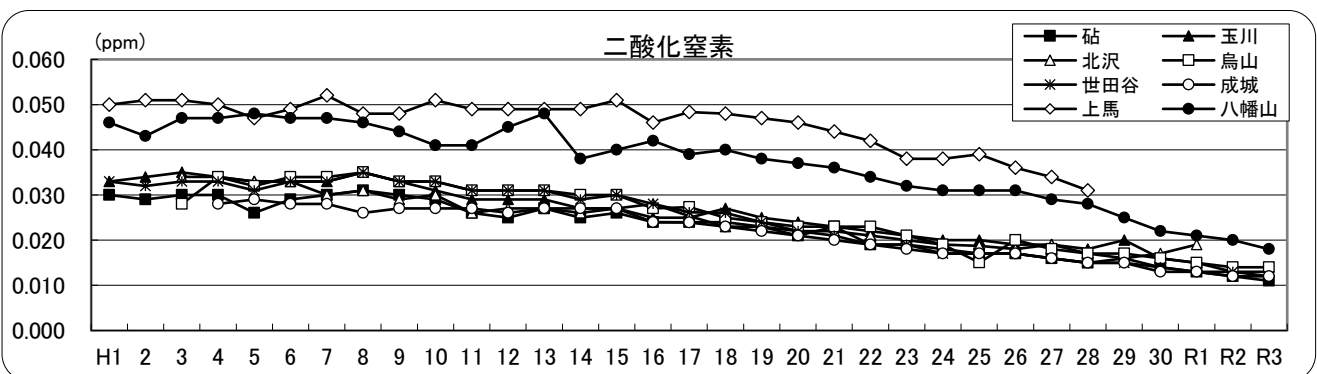
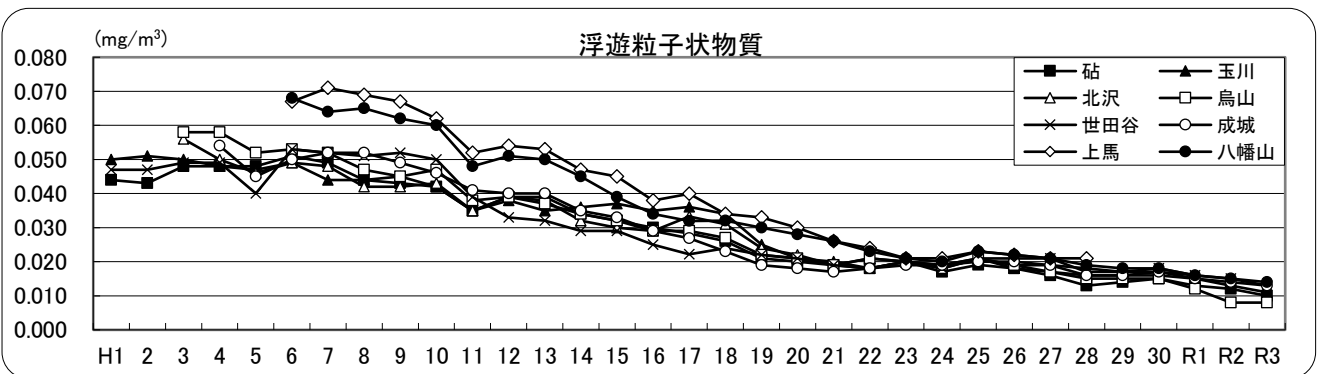
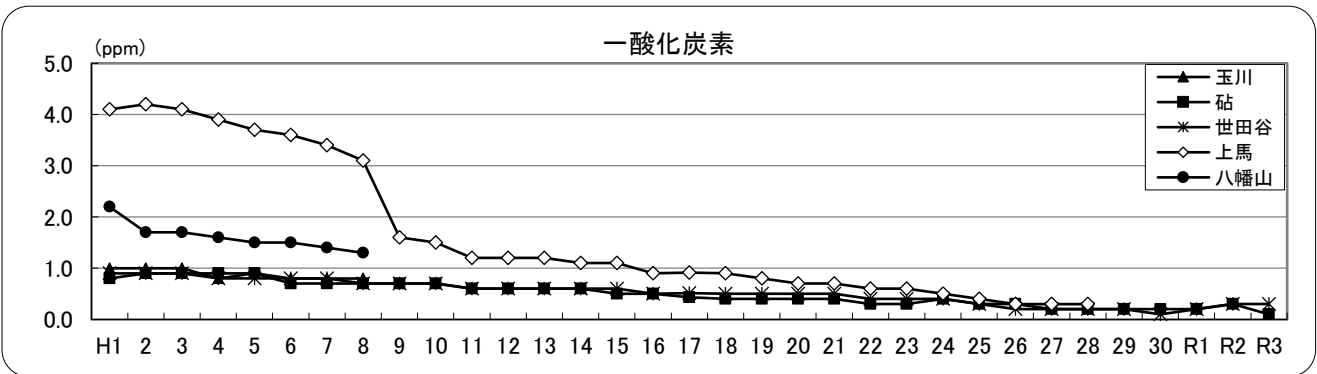
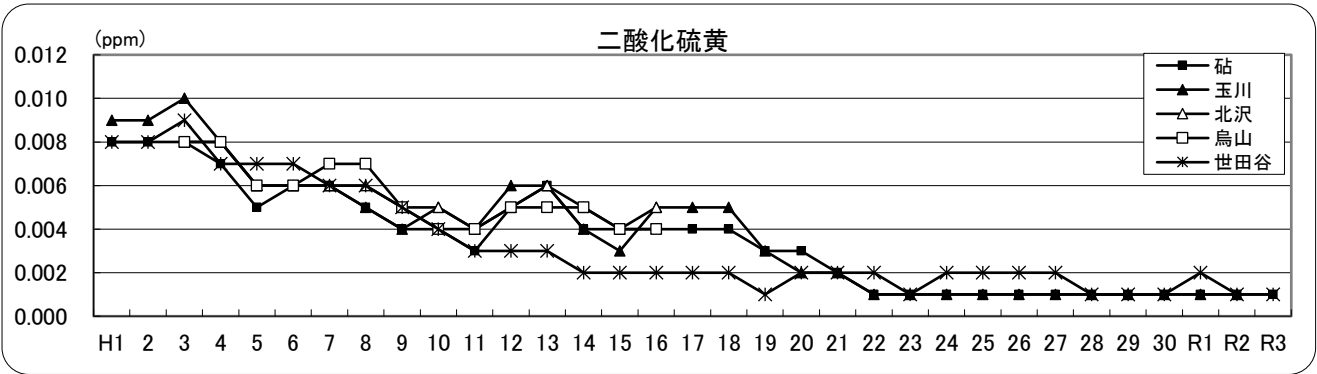
◇参加者1世帯あたりのエネルギー消費量(単位:GJ)

| | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|----|--------|-------|-------|-------|-------|
| 電気 | 9.55 | 9.80 | 10.03 | 10.09 | 9.82 |
| ガス | 4.08 | 4.52 | 4.69 | 4.76 | 4.44 |
| 全体 | 13.63 | 14.32 | 14.72 | 14.85 | 14.26 |

※各年度の値は、当該年度の参加者1世帯あたりの、当該年3か月分のエネルギー消費量である。

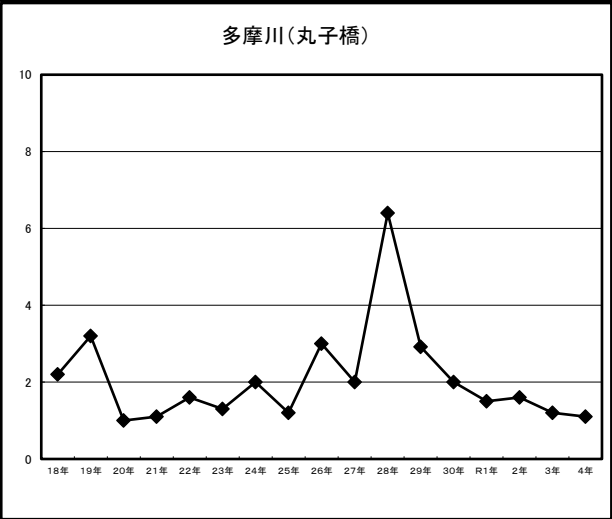
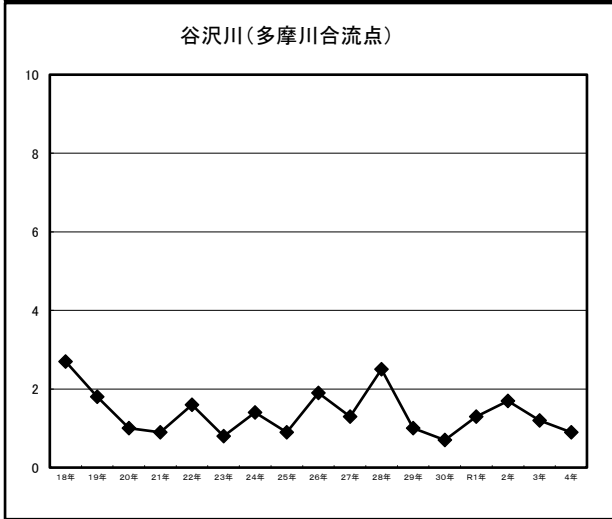
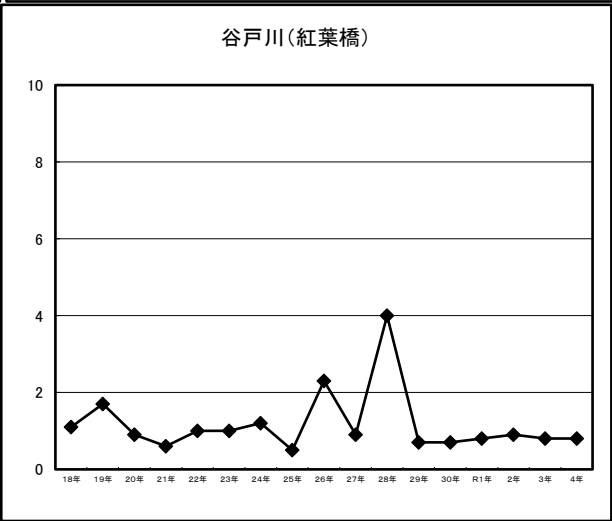
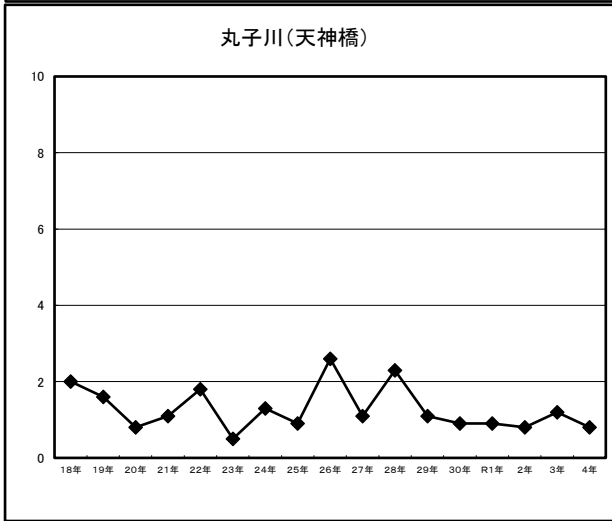
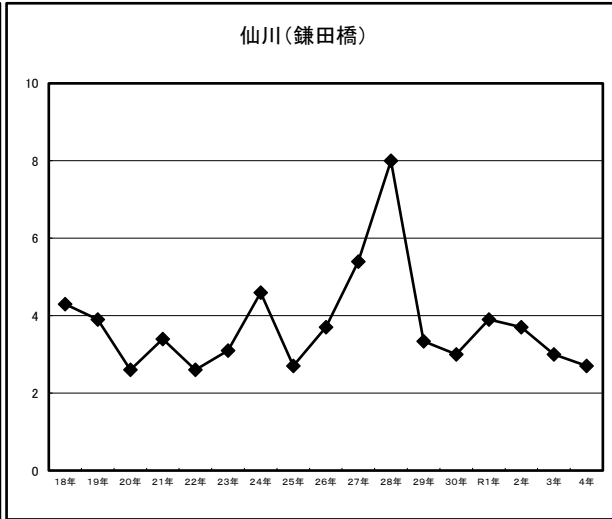
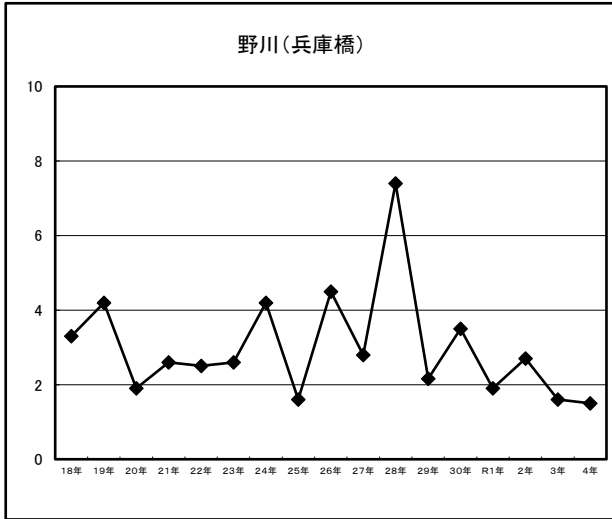


■ 大気汚染の監視



■ 河川に関する調査

◇ 河川水質定期調査



◇水生生物調査（魚類）

【仙川・谷沢川】

| 種名 | 河川名 | | 仙川 | | | | | | | | | | | | 谷沢川 | | | | | | | | | | | |
|------|-----------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|--|
| | 地点名 | 地点番号 | 大川橋 | | | | | | | | | | | | 等々力溪谷内 | | | | | | | | | | | |
| | | | No.3 | | | | | | | | | | | | No.5 | | | | | | | | | | | |
| 調査年月 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | |
| 1 | ニホンウナギ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | コイ | 1 | | 20 | 5 | 3 | 5 | 5 | | | 2 | 4 | 10 | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | ゲンゴロウブナ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ギンブナ | 2 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | キンギョ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | フナ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | タイリクバラタナゴ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | オイカワ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | カワムツ | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | |
| 10 | アブラハヤ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | マルタ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | ウグイ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | ウグイ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | モツゴ | 75 | 5 | 4 | 6 | 5 | 1 | 14 | 8 | 2 | | | | | | 2 | | | 2 | | | | | | | |
| 15 | タモロコ | 20 | 2 | 14 | 1 | | 2 | 15 | 15 | | | | 2 | | | 1 | 1 | | 1 | | | | | | | |
| 16 | カマツカ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 | ニゴイ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | スゴモロコ類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19 | ドジョウ | | | | 2 | 1 | | | | | | | 1 | | 4 | 3 | 4 | 2 | 4 | 7 | 1 | 3 | 12 | 7 | 19 | |
| 20 | ヒガシシマドジョウ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21 | ナマズ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | アユ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 | ミナミメダカ | 10 | 38 | 11 | 12 | 8 | 10 | 44 | | 106 | 9 | 15 | 47 | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 24 | スズキ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | コクチバス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | ボラ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | スミウキゴリ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 28 | ウキゴリ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 29 | マハゼ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30 | トウヨシノボリ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 31 | ヨシノボリ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 32 | ヌマチチブ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 33 | カムルチー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 種類数 | 5 | 3 | 5 | 5 | 4 | 4 | 4 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 1 | 4 | 3 | 2 | 2 | 5 | 4 | 2 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| | 合計個体数 | 108 | 45 | 52 | 26 | 17 | 18 | 78 | 23 | 108 | 11 | 21 | 58 | 2 | 16 | 9 | 5 | 3 | 17 | 26 | 7 | 52 | 41 | 23 | 36 | |

【野川】

| 種名 | 河川名 | | 野川 | | | | | | | | | | | | 野川 | | | | | | | | | | | |
|------|-----------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|---|
| | 地点名 | 地点番号 | 神明橋 | | | | | | | | | | | | 兵庫橋 | | | | | | | | | | | |
| | | | No.1 | | | | | | | | | | | | No.2 | | | | | | | | | | | |
| 調査年月 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | |
| 1 | ニホンウナギ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | コイ | 10 | 5 | 8 | 15 | 18 | 2 | 11 | | 3 | 6 | 5 | 4 | 5 | 23 | 18 | 9 | 8 | 2 | 4 | | 1 | 1 | 18 | 11 | |
| 3 | ゲンゴロウブナ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ギンブナ | 20 | 15 | 24 | 18 | 10 | 15 | 21 | | 4 | 4 | | | 20 | 34 | 20 | 6 | 4 | 8 | 5 | | | 2 | | | |
| 5 | キンギョ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | フナ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | タイリクバラタナゴ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | オイカワ | 30 | 31 | 44 | 66 | 42 | 5 | 22 | 10 | 16 | 59 | 48 | 26 | 45 | 24 | 125 | 104 | 88 | 27 | 46 | 31 | 18 | 21 | 71 | 22 | |
| 9 | ヌマムツ | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | カワムツ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | マルタ | | | | | | | | 2 | 16 | 11 | 2 | | 10 | 12 | 15 | 7 | | | | | | | | | |
| 12 | ウグイ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | ウグイ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | モツゴ | 60 | 26 | 26 | 38 | 10 | 2 | 9 | | 11 | 7 | 3 | 41 | 120 | 21 | 48 | 52 | 16 | 2 | 1 | | | 2 | 1 | 2 | |
| 15 | タモロコ | 11 | | 16 | 9 | | 5 | 28 | 34 | 2 | 7 | 12 | 26 | 30 | 2 | 22 | 18 | 9 | 1 | 8 | | 1 | 1 | | | |
| 16 | カマツカ | | | | | | | | | | 2 | 7 | 4 | 12 | 2 | 4 | 3 | 2 | | 2 | | | | | 2 | |
| 17 | ニゴイ | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | スゴモロコ類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19 | ドジョウ | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 | ヒガシシマドジョウ | | | | | | 2 | 1 | 2 | 5 | 7 | 18 | 4 | | | | | | | | | | | | | |
| 21 | ナマズ | | | 1 | 1 | | | 1 | | | 1 | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | アユ | | | | 8 | | | | 1 | 1 | | | | 4 | 2 | 28 | 20 | 12 | 6 | 8 | 3 | 3 | 3 | | | |
| 23 | ボラ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 24 | ミナミメダカ | 15 | 21 | 16 | 5 | 14 | 19 | 10 | | | 9 | 4 | | 10 | | 4 | 7 | 7 | | 6 | | 1 | 15 | 2 | 5 | |
| 25 | スズキ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | アブラハヤ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | コクチバス | | | | | | | | | | 1 | | | | 6 | 3 | 9 | | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | 4 | | |
| 28 | ボラ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 29 | スミウキゴリ | | 23 | 6 | 3 | 1 | 1 | 9 | 2 | 9 | 9 | 5 | | | 21 | 10 | 10 | | 8 | 8 | 2 | 35 | 11 | 4 | | |
| 30 | ウキゴリ | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 4 | 2 | 3 | 4 | 1 | | 5 | 9 | 6 |
| 31 | マハゼ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 32 | トウヨシノボリ | 1 | | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 33 | カワヨシノボリ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 34 | ヨシノボリ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 35 | ヌマチチブ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 36 | カムルチー | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 種類数 | 7 | 8 | 10 | 12 | 8 | 8 | 10 | 6 | 9 | 15 | 14 | 9 | 16 | 12 | 18 | 19 | 16 | 13 | 17 | 9 | 11 | 16 | 12 | 11 | |
| | 合計個体数 | 147 | 123 | 144 | 174 | 98 | 51 | 113 | 51 | 65 | 142 | 135 | 115 | 280 | 152 | 334 | 269 | 162 | 82 | 159 | 52 | 153 | 120 | 143 | 116 | |

【丸子川・谷戸川】

| 種名 | 河川名 | | 丸子川(谷戸川) | | | | | | | | | | | 丸子川 | | | | | | | | | | | | |
|------|-----------|-----|----------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|
| | 地点名 | | 谷戸川合流点 | | | | | | | | | | | 西根橋 | | | | | | | | | | | | |
| | 地点番号 | | No.4 | | | | | | | | | | | No.6 | | | | | | | | | | | | |
| 調査年月 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | | |
| 1 | ニホンウナギ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | コイ | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | ゲンゴロウブナ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 1 | 3 | 10 | 2 | |
| 4 | キンブナ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 1 | | |
| 5 | キンギョ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | フナ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | | | | |
| 7 | タイリクバラタナゴ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | オイカワ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | カワムツ | | | 5 | 3 | 14 | 25 | 41 | 4 | 42 | 23 | 111 | 30 | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 10 | アブラハヤ | | | | | | | | | | 4 | 4 | 15 | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | マルタ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | ウグイ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | ウグイ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | モツゴ | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | 1 | | |
| 15 | タモロコ | | | | | | 2 | 1 | | | 2 | | 3 | 3 | | 3 | 5 | 3 | 9 | 7 | 5 | 12 | 48 | 11 | 30 | |
| 16 | カマツカ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 | ニゴイ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | スゴモロコ類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19 | ドジョウ | 1 | 4 | 1 | 1 | 1 | | 2 | | 2 | 1 | 3 | | | 1 | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | |
| 20 | ヒガシシマドジョウ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21 | ナマズ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | アユ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 | ミナミメダカ | 3 | | 14 | 3 | 2 | | | | 1 | | | | | 2 | 47 | 8 | 7 | 5 | 8 | 42 | 9 | 3 | 33 | 20 | 53 |
| 24 | カワヨシノボリ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 25 | コクチバス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | ボラ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | スミウキゴリ | 5 | 14 | 8 | 6 | 5 | 13 | 49 | 2 | 4 | 5 | 17 | 2 | 5 | 11 | 10 | 2 | 10 | 3 | 36 | 2 | 2 | 5 | 7 | 4 | |
| 28 | ウキゴリ | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 29 | マハゼ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30 | トウヨシノボリ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 31 | ヨシノボリ属 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 32 | ヌマチチブ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 33 | カムルチー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 種類数 | 4 | 2 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 2 | 4 | 5 | 5 | 4 | 4 | 3 | 6 | 3 | 4 | 3 | 4 | 4 | 5 | 6 | 6 | 5 | |
| | 合計個体数 | 11 | 18 | 28 | 13 | 22 | 40 | 93 | 6 | 49 | 35 | 136 | 50 | 11 | 59 | 25 | 14 | 19 | 20 | 87 | 17 | 26 | 93 | 50 | 90 | |

◇水生生物調査（底生動物）

| 地点番号 | | No.1 | No.2 | No.3 | No.4 | No.5 | No.6 |
|---------------------------------------|-----------------|-------|-------|-------|--------|--------|------|
| 河川名 | | 野川 | | 仙川 | 丸子川 | 谷沢川 | 丸子川 |
| 地点名 | | 神明橋 | 兵庫橋 | 大川橋 | 谷戸川合流点 | 等々力溪谷内 | 西根橋 |
| 種類数（定量+定性） | | 37 | 44 | 16 | 30 | 28 | 19 |
| 汚濁階級指数ごとの種類数 | 4(ps) | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 3(αm) | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 0 |
| | 2(βm) | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| | 1(os) | 4 | 4 | 0 | 5 | 0 | 0 |
| | 指数なし | 15 | 11 | 8 | 17 | 17 | 2 |
| 汚濁指数（サブロビ指数） | | 2.0 | 1.7 | 2.9 | 2.1 | 3.0 | - |
| 個体数合計 | | 1,072 | 1,964 | 2,782 | 285 | 201 | 194 |
| 主要種 | アメリカツノウズムシ | | ○ | | | ▲ | |
| | チリメンカワニナ | | | | ○ | | |
| | ハバヒロビル | | | | | △ | |
| | シマイシビル | 3 | | | △ | ◎ | |
| | ミズムシ（甲殻類） | 3 | | ● | ● | ● | |
| | カワリヌマエビ属 | | ▲ | | | | ● |
| | ミツオミジカオフトバコカゲロウ | 1 | | ▲ | | | |
| | サホコカゲロウ | 2 | | | △ | | |
| | ウデマガリコカゲロウ | | ◎ | ● | | ◎ | |
| | コガタシマトビケラ | 2 | ● | | | | |
| | コガタシマトビケラ属 | | | | | ▲ | |
| | ウルマーシマトビケラ | 2 | | ▲ | | | |
| | セスジユスリカ | | | | ◎ | | |
| | ツヤユスリカ属 | | ▲ | | | | |
| | カワリユスリカ属 | | | | | | ◎ |
| | ハモンユスリカ属 | | △ | | ○ | △ | |
| | ナガレツヤユスリカ属 | | ○ | ◎ | | | △ |
| ナガレユスリカ属 | | | | ▲ | | ○ | |
| ユスリカ亜科 | | | | | | △ | |
| 注1) 主要種は調査地点ごとの上位5種とした。 | | | | | | | |
| ●：第1位 ◎：第2位 ○：第3位 ▲：第4位 △：第5位 | | | | | | | |

◇水生生物調査（付着藻類）

| 地点番号 | | No.1 | No.2 | No.3 | No.4 | No.5 | No.6 |
|--|--|-------|-------|------|--------|--------|-------|
| 河川名 | | 野川 | | 仙川 | 丸子川 | 谷沢川 | 丸子川 |
| 地点名 | | 神明橋 | 兵庫橋 | 大川橋 | 谷戸川合流点 | 等々力溪谷内 | 西根橋 |
| 種類数 | | 38 | 37 | 11 | 29 | 33 | 19 |
| 汚濁階級指数ごとの種類数 | 4 (ps) | 6 | 4 | 2 | 2 | 4 | 4 |
| | 3 (α m) | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 2 (β m) | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 0 |
| | 1 (os) | 5 | 7 | 1 | 1 | 4 | 1 |
| | 指数なし | 22 | 19 | 6 | 22 | 21 | 13 |
| 汚濁指数（サブロピ指数） | | 2.9 | 1.4 | 1.9 | 2.6 | 2.0 | 3.7 |
| 細胞数合計（細胞/cm ² ） | | 3,972 | 7,746 | 74 | 2,652 | 5,680 | 1,626 |
| 沈殿量（mL/75cm ² ） | | 0.4 | 0.6 | 0.2 | 0.6 | 1.6 | 0.4 |
| 主要種 | <i>Melosira varians</i> | 1 | ◎ | ● | | ○ | |
| | <i>Staurosirella pinnata</i> | | | ○ | | | |
| | <i>Synedra rumpens var. familiaris</i> | | | | | ◎ | |
| | <i>Ulnaria pseudogailonii</i> | | ○ | | | | |
| | <i>Eunotia minor</i> | | | ▲ | | | |
| | <i>Amphora pediculus</i> | | | ▲ | | | |
| | <i>Gomphonema lagenula</i> | | ● | | | ▲ | ◎ |
| | <i>Gomphonema parvulum</i> | 4 | | | | | ▲ |
| | <i>Gomphonema pumilum</i> | | | | | ◎ | ● |
| | <i>Navicula confervacea</i> | | | ▲ | | | |
| | <i>Navicula cryptotenella</i> | | △ | | | ○ | ○ |
| | <i>Rhoicosphenia abbreviata</i> | | | | | ● | |
| | <i>Achnanthydium convergens</i> | 1 | | ○ | | | |
| | <i>Achnanthydium subhudsonis</i> | | | | | ▲ | ● |
| | <i>Cocconeis placentula</i> | 1 | | ● | | | |
| | <i>Nitzschia amphibia</i> | 3 | ◎ | △ | ◎ | △ | |
| <i>Nitzschia palea</i> | 4 | △ | | ▲ | | △ | |
| <i>Nitzschia sinuata var. delognei</i> | | ▲ | | | | | |

調査日：令和4年8月3日、8～9日

主要種：確認細胞数の多い上位5種

●：第1位 ◎：第2位 ○：第3位 ▲：第4位 △：第5位

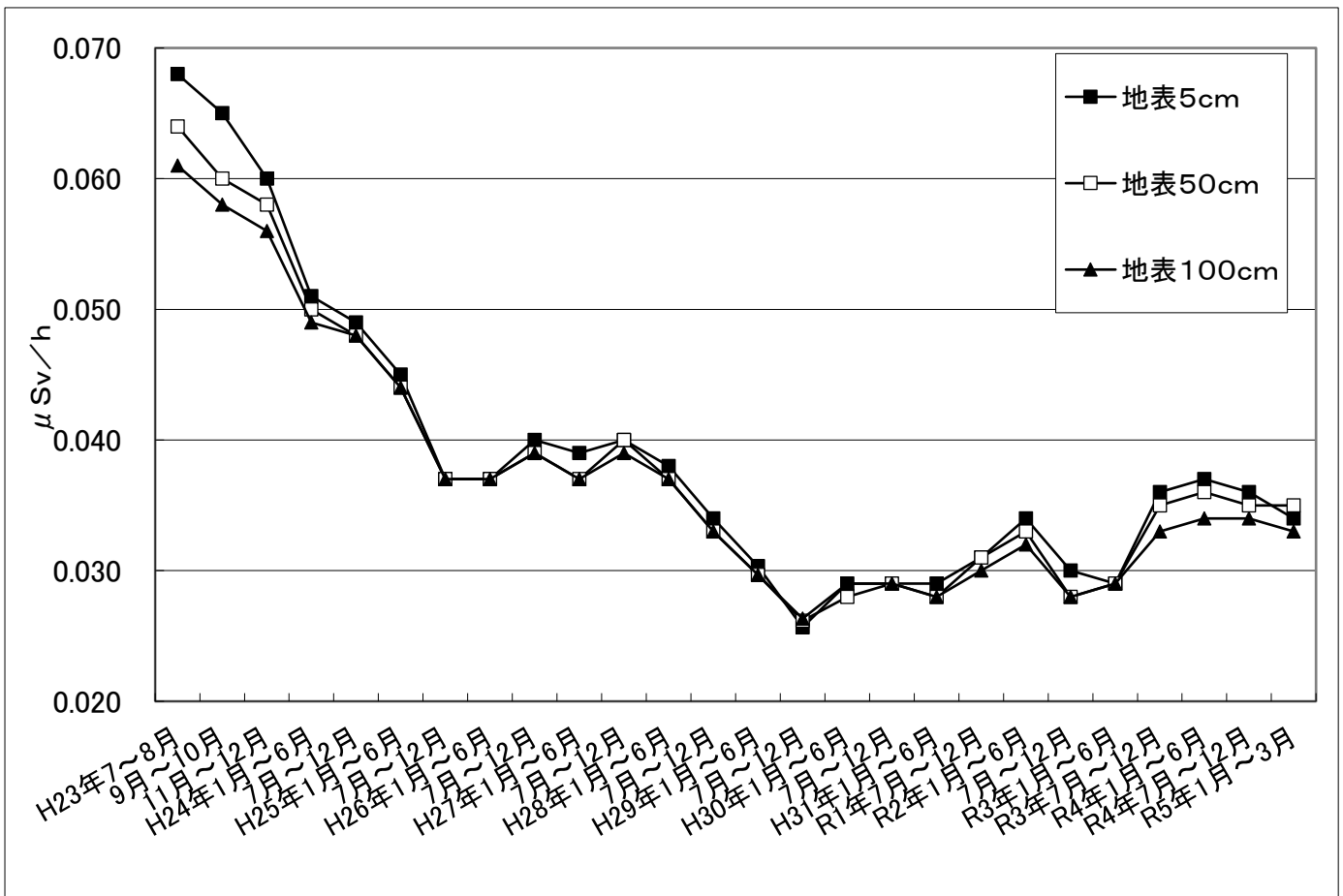
■ 地下水汚染対策調査

調査結果（令和4年7月実施）

単位：mg/L

| 検査項目 | 基準値 | 上馬塩田緑地 | 太子堂2丁目広場 | 経堂地区会館 |
|----------------|----------|---------|----------|---------|
| トリクロロエチレン | 0.01 以下 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| テトラクロロエチレン | 0.01 以下 | <0.0005 | 0.035 | <0.0005 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 1 以下 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 |
| 1,2-ジクロロエタン | 0.04 以下 | <0.004 | <0.004 | <0.004 |
| 塩化ビニルモノマー | 0.002 以下 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 |
| 1,4-ジオキサン | 0.05 以下 | <0.005 | <0.005 | <0.005 |

■ 放射線量調査



令和5年6月9日
環境政策部
環境計画課

環境に関する区民意識・実態調査の実施について

1 主旨

次期計画の策定にあたって、現計画の策定時に実施した「世田谷区環境に関する区民意識・実態調査」を再度実施し、前回の結果との比較分析を行うとともに、今後の計画策定時の基礎資料として活用する。

2 調査の概要

- 対象者 世田谷区在住の満18歳以上の男女個人
 - 対象者数 4,000人（住民基本台帳に基づき無作為に抽出）
 - 調査方法 調査票を郵送配付。原則としてインターネット回答。
 - 調査期間 令和5年8月
- ※本調査は平成25年度に初めて実施し、今年度の調査は通算で3回目の実施である。前回調査時（平成30年度）の有効回答数は対象者4,000人中2,232人、回答率は55.8%。

3 今後の予定

- 令和5年 8月～ 対象者へ依頼文を郵送・インターネット回答
- 9月～ 結果の集計、分析
- 11月 環境審議会へ結果の報告（速報）

4 調査項目

- 区民の皆さんの環境に配慮した行動について
 - 皆さんの電気の購入等について
 - 世田谷区が取り組んでいる環境施策について
 - 世田谷区の環境に期待することについて
 - 世田谷区からの案内や情報について
 - 世田谷区の環境についての意見、要望
- ※詳細は別紙参照

環境に関する区民意識・実態調査 調査項目

【基本項目（フェイスシート）】

F 1 あなたの性別はどちらですか。（○は1つ）

- | | | |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

F 2 あなたの年齢はいくつですか。（○は1つ）

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 6 40～44歳 | 11 65～69歳 |
| 2 20～24歳 | 7 45～49歳 | 12 70～74歳 |
| 3 25～29歳 | 8 50～54歳 | 13 75～79歳 |
| 4 30～34歳 | 9 55～59歳 | 14 80歳以上 |
| 5 35～39歳 | 10 60～64歳 | |

F 3 あなたのお住まいの地域はどこですか。（○は1つ）

- | | |
|---------|--------|
| 1 世田谷地域 | 4 砧地域 |
| 2 北沢地域 | 5 烏山地域 |
| 3 玉川地域 | |

F 4 あなたのご職業は次のどれですか。（○は1つ）

- | | | |
|-------------------------------|----------------------------|-------|
| 1 自営業・事業主 | 4 その他就業者（家族従業者、 農業従業者等） | 7 無職 |
| 2 会社員・公務員・団体職員 | 5 家事専業 | 8 その他 |
| 3 パート・臨時職員（非常勤、 嘱託、派遣等を含む） | 6 学生 | |

F 4 あなたの世帯人数は次のどれですか。（○は1つ）

- | | | |
|------|------|--------|
| 1 1人 | 4 4人 | 7 7人以上 |
| 2 2人 | 5 5人 | |
| 3 3人 | 6 6人 | |

F 5 あなたの住居形態は次のどれにあたりますか。（○は1つ）

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1 一戸建て（持ち家） | 7 都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・ 区営住宅 |
| 2 分譲マンション（持ち家） | 8 社宅・官舎・寮・間借り・住み込み |
| 3 店舗併用住宅（持ち家） | 9 ケアつき住宅・老人ホーム |
| 4 一戸建て（借家） | 10 その他 |
| 5 店舗併用住宅（借家） | |
| 6 民営アパート・マンション | |

F 6 あなたのご家庭では自家用車をお持ちですか。（○は1つ）

- | | |
|---------|----------|
| 1 持っている | 2 持っていない |
|---------|----------|

【区民の皆さんの環境に配慮した行動について】

問1 あなたの環境に配慮した行動の状況をうかがいます。以下の(1)～(10)の各項目について、あてはまるものを選んでください。

(1) 次のア～クの省エネ行動について、それぞれ当てはまる番号に1つ○をつけてください。また、その他に行っている取り組みがあれば記入してください。

| 項 目 | い つも や っ て い る | 時 々 や っ て い る | こ れ か ら や り た い | や る つ も り は な い |
|--|----------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ア 自宅で使っている電気・ガス・水道などの消費量をチェックし、削減に取り組む | 1 | 2 | 3 | 4 |
| イ エアコンなどの空調設備を使うときは、設定温度などに気をつける | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ウ 使わない電気機器は、主電源を切ったり、スイッチ付きのタップのスイッチを切る | 1 | 2 | 3 | 4 |
| エ こまめに水道の蛇口、シャワーを止める | 1 | 2 | 3 | 4 |
| オ ご飯は必要な分だけ炊く、まとめて炊いて余りを冷凍するなどにより、炊飯器の保温時間を減らす | 1 | 2 | 3 | 4 |
| カ 冷蔵庫に食材を詰め込みすぎないように心がける | 1 | 2 | 3 | 4 |
| キ 家にいる時は、なるべく1つの部屋で過ごす | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ク 家電製品などを購入する時には、LED照明や省エネマークのついた家電などの省エネルギーに配慮したものを選ぶ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ケ パソコンなどの電子機器を省エネモードに設定するなど、電源オプションを利用する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| その他の取り組み () | | | | |

(2) 資源の分別回収のほか、地域の団体による回収、公共施設や店頭での資源回収が行われています。あなたが地域の団体や店頭などに出している資源は何ですか。(○はいくつでも)

| | |
|----------|-----------------|
| 1 衣類 | 6 どれも出していない |
| 2 ペットボトル | 7 回収していることを知らない |
| 3 発泡トレイ | 8 その他 |
| 4 牛乳パック | (具体的に) |
| 5 廃食用油 | |

(3) 次のア〜クのごみの削減・リサイクルの行動について、それぞれ当てはまる番号に1つ○をつけてください。また、その他に行っている取り組みがあれば記入してください。

| 項 目 | い つもや っている | 時 々や っている | こ れか らや りたい | や るし も り は な い |
|--|------------------|-----------------|----------------------|----------------------------------|
| ア 買い物袋やマイバックを持参してレジ袋を使わない、過剰包装を断る | 1 | 2 | 3 | 4 |
| イ 生ごみを出す前の水切り | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ウ 食べ残しをしない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| エ 商品棚の手前にある商品などの販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ「てまえどり」をする | 1 | 2 | 3 | 4 |
| オ 食材等は（予定を考えて）必要な分だけ購入する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| カ 割り箸をなるべく使わず、マイ箸を使う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| キ リサイクルショップやフリーマーケットなどで、不要な衣類を売ったり、買ったりする | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ク 新聞・雑誌などは可燃ごみではなく、資源ごみとして出すなど、ごみ・資源の分別を徹底する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| その他の取り組み () | | | | |

(4) 次のア〜カ的环境に関するその他の取り組みについて、それぞれ当てはまる番号に1つ○をつけてください。また、その他に行っている取り組みがあれば記入してください。

| 項 目 | い つもや っている | 時 々や っている | こ れか らや りたい | や るし も り は な い |
|--|------------------|-----------------|----------------------|----------------------------------|
| ア 自宅内の敷地内や壁面、屋上、ベランダ、生垣などの緑化 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| イ 雨水や風呂の残り水など利用した打ち水、窓辺へ緑のカーテンを設置、よしずの活用など、空調設備に頼り過ぎない工夫 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ウ 「洗剤は適量を使う」「料理で使った油はそのまま流さない」など、生活排水への注意 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| エ 徒歩、自転車や電車・バスなどの公共交通機関を利用するなど、できるだけ環境に配慮した交通手段を利用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| オ 街の清掃などの環境美化、花づくり活動など、行政や地域の団体が行う環境に関する取り組みへの参加 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| カ 環境に関する情報に関心を持っている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| その他の取り組み () | | | | |

(5) あなたは他の人に比べて、環境に配慮した行動をやっていると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 やっていると思う | 4 どちらかといえばやっていないと思う |
| 2 どちらかといえばやっていると思う | 5 わからない |
| 3 どちらともいえない | |

(6) (5)で「どちらかといえばやっていないと思う」、または「やっていないと思う」と答えた方にお聞きます。環境に配慮した行動を妨げている理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1 生活上の不便・不自由・面倒などが生じるから | 6 時間に余裕がないから |
| 2 必要性を感じないから | 7 経済的に余裕がないから |
| 3 関心がないから | 8 楽しさを感じないから |
| 4 成果を感じづらく、意欲が上がらないから | 9 その他 |
| 5 具体的な取組みとして何をすればいいのかが分からないから | (具体的に) |

(7) 太陽光・風力・地熱・水力・バイオマスといった再生可能エネルギーは、温室効果ガスを排出せず、国内で生産でき、地球温暖化対策の一助となります。再生可能エネルギーを生活の中で利用していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 利用している | 3 利用するつもりはない |
| 2 これから利用したい | 4 わからない |

(8) 上記(7)で「1 利用している」に○をつけた方にお聞きます。取り入れている再生可能エネルギー(自然エネルギー)の種類について、次の中から選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1 太陽光パネルの設置 | 4 再生可能エネルギー由来の電力の購入 |
| 2 太陽熱の利用 | 5 その他の再生可能エネルギー |
| 3 地中熱の利用 | |

(9) 基本項目F7で「1. 持っている」に○をつけた方にお聞きます。あなたの家庭の自家用車の種類について、次の中から選んでください。

- | | |
|----------------|-----------|
| 1 ガソリン車 | 5 燃料電池自動車 |
| 2 ハイブリッド車 | 6 ディーゼル車 |
| 3 電気自動車 | 7 その他 |
| 4 プラグインハイブリッド車 | 8 わからない |

(10) 基本項目F7で「1. 持っている」に○をつけた方にお聞きます。今後、自家用車を買って替える場合、どの種類にする予定ですか。

- | | |
|----------------|-----------|
| 1 ガソリン車 | 5 燃料電池自動車 |
| 2 ハイブリッド車 | 6 ディーゼル車 |
| 3 電気自動車 | 7 その他 |
| 4 プラグインハイブリッド車 | 8 わからない |

【皆さんの電気の購入等について】

問2 皆さんの電気購入の状況について、分かる範囲で結構ですので、以下の(1)～(3)の各項目について、あてはまるものを選んでください。

(1) あなたが電力の購入先を選択する際に重要視することを、次の中から選んでください。(○は1つ)

| | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 電気料金 | 4 電気料金以外のサービス(割引やポイントなど) |
| 2 再生可能エネルギーで発電された電気など、発電方法 | 5 その他 |
| 3 ガス、インターネット、携帯電話などのサービスとの兼ね合い | (具体的に) |

(2) あなたのご家庭で、再生可能エネルギー(太陽光発電、水力発電等)で作られた電気を選ぶ場合、価格面での条件として該当するものを次の中から選んでください。(○は1つ)

| | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 価格が他の電気より高くても積極的に利用したい | 4 価格型の電気より安い場合は利用したい |
| 2 価格が都の電気より少し高い程度なら利用したい | 5 どのような価格でも利用したくない |
| 3 価格型の電気と同程度なら利用したい | 6 その他 |
| | (具体的に) |

(3) 区は、川場村などをはじめとするエネルギー資源の豊富な自治体と連携することで、区内での再生可能エネルギーの利用拡大を進めています。このような再生可能エネルギーを活用した自治体間連携の取組みを、あなたは知っていますか。次の中から選んでください。(○は1つ)

| | |
|-----------------------|----------|
| 1 知っている | 3 知らなかった |
| 2 聞いたことはあるが、内容はよく知らない | |

【世田谷区が取り組んでいる環境施策について】

問3 区は、東京都や国の各省庁の行う環境の施策と連携を取りながら、いろいろな施策を行っています。区の取り組みの状況についてあなたはどうか評価していますか。
次の(1)～(19)について、それぞれ当てはまる番号に1つ○をつけてください。

| 項目 | 区はよく取り組んでいると思う | どちらかといえば、 取り組んでいると思う | 普通 | どちらかといえば、 取り組んでいないと思う | 取り組みが不十分だと思う | わからない |
|--|----------------|-------------------------|----|--------------------------|--------------|-------|
| (1) 省エネルギーに関する周知活動や | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (2) 省エネルギー住宅の普及促進・支援 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (3) 太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用に関する啓発や支援 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (4) ごみ減量行動の啓発や支援 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (5) ごみの分別回収 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (6) 区民主体の資源回収活動の啓発や支援 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (7) 樹林地などの貴重な自然環境の保全 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (8) 公共施設の緑化や公園などの整備 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (9) 農業・農地保全による潤いのあるまちづくり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (10) 河川・水辺の保全 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (11) 住まいの緑化や、雨水を貯留・浸透させる雨水浸透ますや雨水タンクの設置への啓発や支援 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (12) 区民・事業者と連携した、地域の風景の保全や風景づくり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (13) ヒートアイランド現象などによる街の気温上昇の抑える取り組み | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (14) 徒歩や自転車利用、公共交通機関による移動の促進に関する啓発や支援 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (15) ごみやたばこの吸い殻などのポイ捨て防止の啓発 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (16) 歩きたばこや路上喫煙防止の啓発 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (17) たばこルールなど、地域の環境に関するルールづくり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

| 項目 | 区はよく取り組んでいると思う | どちらかといえば、 取り組んでいると思う | 普通 | どちらかといえば、 取り組んでいないと思う | 取り組みが不十分だと思う | わからない |
|----------------------------|----------------|-------------------------|----|--------------------------|--------------|-------|
| (18) きれいな空気や水、土壌の確保 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (19) 生活騒音、振動、におい・悪臭の抑制 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| (20) 環境教育の実施や環境に関するイベントの開催 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

【世田谷区の環境に期待することについて】

問4 あなたが、今後、世田谷区の環境に関する施策の中で、充実させていく必要があると感じるものはどれですか。次の中から5つまで選んでください。

| | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 日常生活等における省エネルギーに繋がる行動の促進・支援 | 15 太陽光発電など、自然の力を活かした災害対策 |
| 2 省エネルギー住宅の普及促進・支援 | 16 きれいな空気の確保 |
| 3 太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギー（自然エネルギー）の利用 | 17 きれいな水、土壌の確保 |
| 4 利用時に二酸化炭素を発生しない「水素エネルギー」の活用 | 18 生活騒音、振動、におい・悪臭の抑制 |
| 5 大規模な建物を建てる際の環境への負荷の低減 | 19 ポイ捨ての防止 |
| 6 ごみの減量 | 20 落書きへの対策 |
| 7 ごみの分別の徹底、リサイクルの推進 | 21 歩きたばこ、路上喫煙の防止 |
| 8 樹林地などの貴重な自然環境の保全 | 22 徒歩や自転車の利用、公共交通機関による移動の促進に関する啓発や支援 |
| 9 公共施設の緑化や公園などの整備 | 23 電気自動車など、環境負荷の低い自動車の普及 |
| 10 農業・農地の保全 | 23 環境教育、環境学習の推進 |
| 11 地下水の保全など健全な水循環の回復 | 24 カラスなどの鳥獣による被害への対応 |
| 12 水辺環境の保全・創出 | 25 空き地や空き家などへの対応 |
| 13 地域の風景の保全や風景づくり | 26 その他 (具体的に) |
| 14 ヒートアイランド現象の抑制 | |

東京電力パワーグリッド(株)渋谷支社との 「ゼロカーボンシティ実現に向けた共創推進に関する連携協定」 の締結について

添付資料

- ・別紙 1 協定書案

- 本協定は、世田谷区のゼロカーボンシティの実現に向けた取り組み、とりわけ昨年度より検討中の「脱炭素地域づくり」を加速するため、地域の送配電事業者である東京電力パワーグリッド(株)と、環境・エネルギーの分野において、相互の連携を強化するものである。
- 区が取り組むエネルギーの地産地消や交流自治体との連携による再エネ利用拡大など、住宅都市の地域特性を踏まえつつ、ゼロカーボンシティ実現の絵姿を共に考え、共に創りあげていくことを目的とする。



東京電力パワーグリッド株式会社

連携事項

脱炭素化

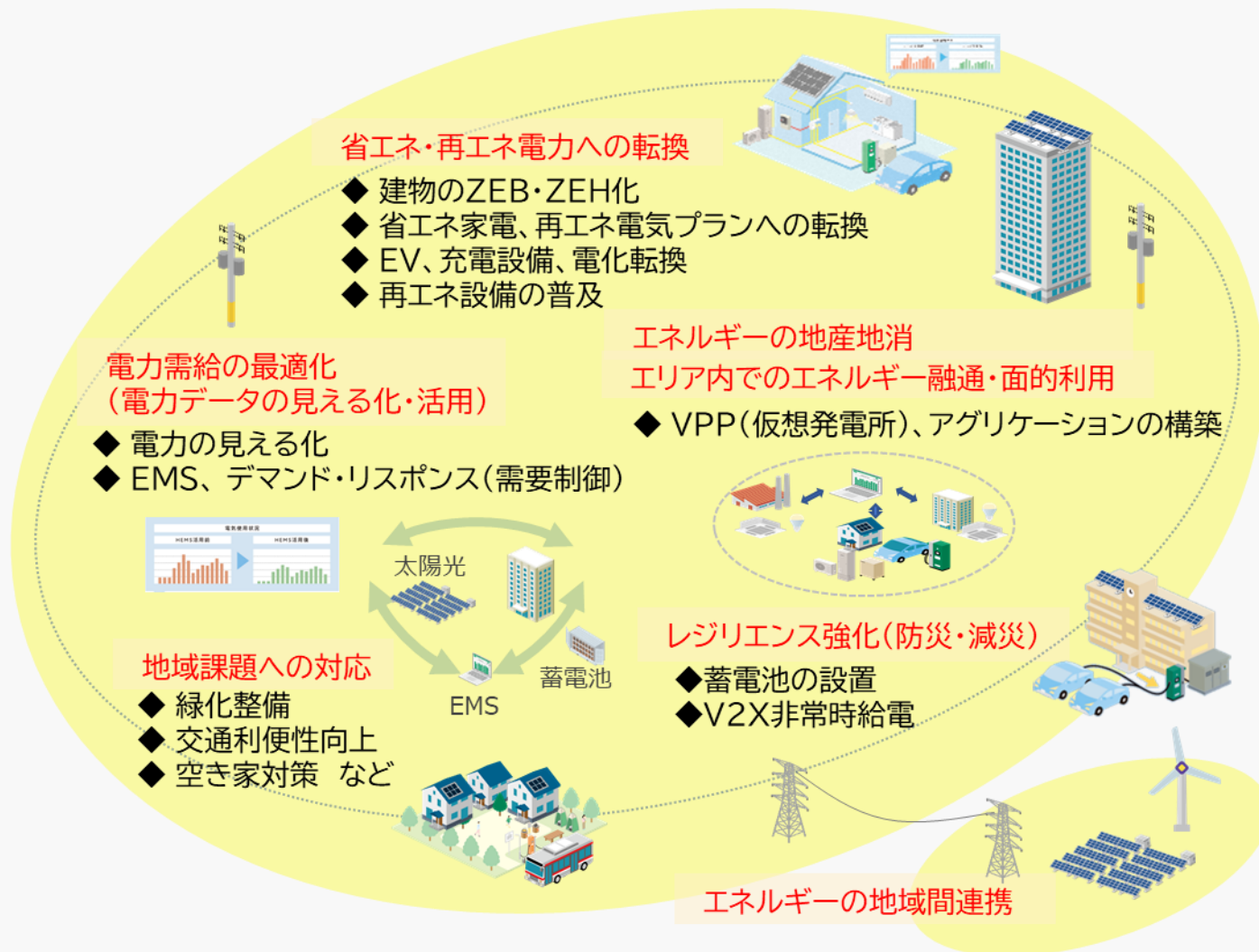
- (1) 省エネの推進に関すること
- (2) 再生可能エネルギー等の地産地消、面的利用及び地域間連携等の推進に関すること
- (3) 脱炭素に向けたエネルギー転換、インフラ整備の取組に関すること

エネルギーの最適利用／レジリエンス強化

- (4) 地域特性にあったエネルギーの最適利用に関すること
- (5) エネルギーレジリエンスの強化に関すること

地域の課題解決・魅力向上

- (6) 脱炭素への取組みを契機とした地域の課題解決、魅力向上への取組に関すること



6月 9日 気候危機対策会議での報告

6月26日 連携協定の締結

以降 具体的な地域における施策の検討



ゼロカーボンシティ実現に向けた共創推進に関する連携協定

世田谷区（以下「甲」という。）及び東京電力パワーグリッド株式会社渋谷支社（以下「乙」という。）は、世田谷区におけるゼロカーボンシティ実現（2050年温室効果ガス排出実質ゼロ）に向けて、次のとおり連携協定（以下「本協定」という。）を締結する。

記

第1条（目的）

本協定は、甲及び乙が、環境・エネルギーの分野において相互に連携・協働し、共に考え、共に創る「共創」により、再生可能エネルギーの利活用や脱炭素化に向けたエネルギーの転換等に向けた施策を効果的かつ継続的に推進することで、世田谷区のゼロカーボンシティの実現や脱炭素への取組を契機とした地域の課題解決、魅力向上に資することを目的とする。

第2条（連携事項）

甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について、連携・協働し、共創する。

- (1) 省エネの推進に関すること
 - (2) 再生可能エネルギー等の地産地消、面的利用及び地域間連携等の推進に関すること
 - (3) 地域特性にあったエネルギーの最適利用に関すること
 - (4) エネルギーレジリエンスの強化に関すること
 - (5) 脱炭素に向けたエネルギー転換、インフラ整備の取組に関すること
 - (6) 脱炭素への取組を契機とした地域の課題解決、魅力向上への取組に関すること
 - (7) 前各号に掲げるもののほか、ゼロカーボンシティ実現に寄与する取組に関すること
- 2 前項各号の具体的な取組については、甲と乙の協議のうえ、決定するものとする。
- 3 本協定による取組を効果的かつ継続的に実施するため、甲と乙は定期的に協議を行うものとする。
- 4 乙は、本条に定める事項の一部を、甲との協議により、乙の関係会社を実施させることができる。

第3条（連絡調整）

甲及び乙は、本協定による連携を円滑で効果的に進めるため、必要に応じて連絡調整を行う。

第4条（守秘義務）

甲及び乙は、本協定による連携を実施する上で知り得た個人情報及び秘密情報（秘密である旨を明示して開示した情報）を、事前の承諾なしに、第三者に開示し、又は他の目的に使用してはならない。

第5条（協定の有効期限）

本協定の有効期間は、締結日から5年間とする。ただし、有効期間満了の日の60日前までに、甲又は乙から何らかの申出がないときは、更に1年間更新するものとし、その後も同様とする。

第6条（法令の遵守）

甲及び乙は、本協定による連携の実施にあたり、関係法令を遵守しなければならない。

第7条（協定内容の変更及び解除）

甲及び乙は、甲乙協議の上、合意により本協定内容の変更又は解除をすることができる。

第8条（協定外又は疑義等の決定）

本協定に定めのない事項又は協定に疑義が生じた事項については、甲乙誠意を持って協議のうえ、決定する。

以上、本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、各々記名捺印のうえ、各1通を保有する。

令和5年 月 日

(甲) 東京都世田谷区世田谷4丁目21番地27号
世田谷区
代表者 世田谷区長 保坂展人

(乙) 東京都渋谷区神南1丁目12番地10号
東京電力パワーグリッド株式会社 渋谷支社
代表者 支社長 寺井義和

各 部 長 あて

令和 5 年度夏季の区施設における節電の実施について

区は、東日本大震災以降の電力需給状況を踏まえ、区役所庁舎及び各施設において節電に取り組んできた。国が示す今夏の電力需給の見通しを基に、これまでの取組みを踏まえ、引き続き節電を実行する。

記

1 概要

(1) 電力需給見通し

国により、今夏の電力需給については、電力の安定供給に最低限必要な予備率※3%を確保できる見通しであると示された。ただし、東京は7月に3.1%と、非常に厳しい見通しであるとされている。

※予備率：電力需要のピークに対し、供給力にどの程度の余裕があるかを示す指標。

(2) 期間及び内容

①期間：電力需要の高い7月～9月

②内容：世田谷区環境マネジメントシステム「ECOステップせたがや」に基づく区施設における節電の徹底

(3) 目標

区施設全体の夏季電気使用量について、平成22年度比21%以上の削減に努める。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策との関連

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、室内換気等に優先的に取り組んだ上で、目標の達成に向け、以下の具体的な取組みを可能な限り実行する。

(5) 電力需給ひっ迫注意報・警報発令時の対応

国は昨年度に引き続き、広域予備率が5～3%の見通しとなった場合は需給ひっ迫注意報を発令し、広域予備率が3%を下回る見通しとなった場合は需給ひっ迫警報を発令することとしている。発令時は、災害対策課から各課あてメールで、発令した旨と追加の節電取組み事例を周知するので、これを参考に節電を徹底する。なお、区民向けには災害対策課より区の災害・防犯情報メール等にて注意報・警報発令を周知する。

《参考：区施設全体の夏季電力使用量削減状況（平成22年度比）》

| | 平成 22年度 (基準年度) | 平成 30年度 | 令和 元年度 | 令和 2年度 | 令和 3年度 | 令和 4年度 | 令和 5年度 |
|-------------|----------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------|-----------|
| 削減目標（基準年度比） | — | ▲21% | ▲21% | ▲21% | ▲21% | ▲21% | ▲21% |
| 電気使用量 | 2,410 万 kWh | 1,993 万 kWh | 1,944 万 kWh | 2,026 万 kWh | 1,990 万 kWh | — | — |
| 削減実績（基準年度比） | — | ▲17% | ▲19% | ▲16% | ▲17% | — | — |

(注釈) 把握が可能な最新の実績である令和3年度実績まで掲載する。

2 区施設における具体的な取組み

(1) 庁舎・事務室

庁舎及び各施設の事務室において、以下の取組みを徹底する。

①照明の消灯

室内照明（高効率蛍光灯、LED 含む）は、業務に支障のない範囲で消灯する。
ただし、窓口対応に無理のない明るさを確保する。

②室内温度 28℃を厳守

エアコンの設定温度ではなく、室内温度であることに留意する。

③パソコン、プリンター、コピー機等の節電

退庁時にパソコンの電源を切った上で電源コードを抜くなど、節電に取り組む。

④定時退庁の励行

定時退庁を励行し、定時以降に勤務を要する場合は、必要最小限の照明を点灯する。

⑤冷蔵庫、電子レンジ、電気ポット等の節電

できる限り利用を控え、冷蔵庫の温度設定を「中」以下にする。

(2) 区民利用施設等

施設の特長や区民利用に配慮しつつ節電に取り組む、利用者にも理解と協力を求める。

節電の実施にあたり、利用者の体調管理や安全確保等に十分留意する。特に、高齢者や障害者・乳幼児等を対象とする施設や学校では、熱中症・脱水症状の防止に十分配慮する。

(3) 庁内周知

施設種別ごとの具体的な取組み等について、6月20日の定期庶務連絡で周知する。

3 その他

(1) 区民への周知・啓発等

①区のおしらせ6月15日号及び区ホームページにて区の節電実施を周知する。

②省エネポイントアクションへの参加を呼びかけ、省エネ意識の醸成と取組みへのきっかけづくりを図る。

③家庭で節電に取り組む際は、熱中症予防や体調管理に留意し、過度な節電とならないよう注意喚起する。熱中症予防のポイント等を記載したチラシの配布やポスター掲示を行う。

(2) 外郭団体等への協力要請

所管部を通じて区の取組みを周知し、協力を要請する。

【本件担当】

環境政策部 環境・エネルギー施策推進課
(内線60-218)